

洲本市人口ビジョン

(2019年度改訂)

検討案

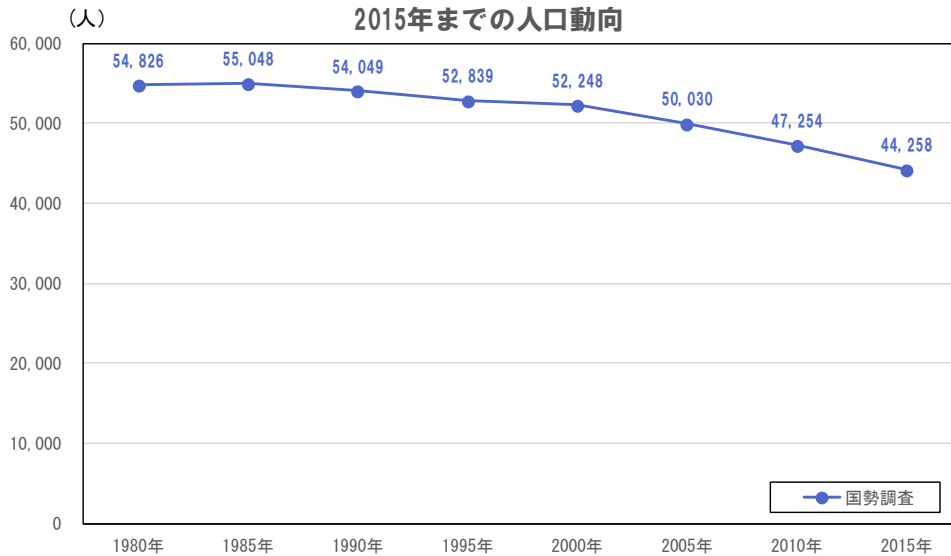
目次

I 洲本市の人口動向	
1. 人口動向特性	1
2. 「人口ビジョン」策定以降の動向	3
3. 「人口ビジョン」の検証	7
II 洲本市の趨勢人口の検討	
1. 社人研による推計	8
2. 趨勢人口の推計	11
III 洲本市の将来人口シミュレーション	
1. 将来人口シミュレーションについて	16
2. 将来人口シミュレーション結果	17
3. シミュレーションを踏まえた人口政策等の課題	23
IV 洲本市の将来人口と将来展望	
1. 洲本市の戦略人口	26
2. 洲本市の将来展望	29

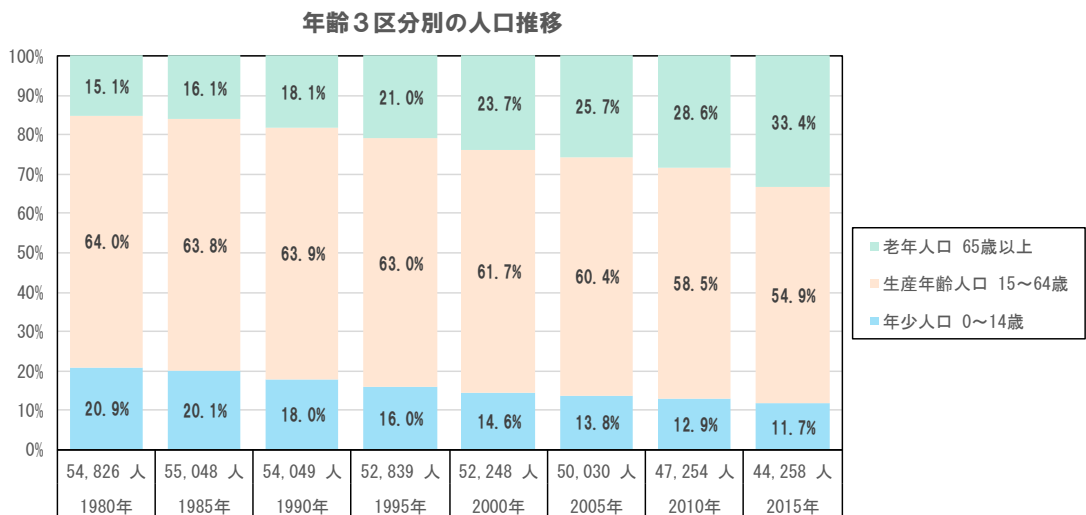
I 洲本市の人口動向

I. 人口動向特性

本市の人口は、1985年に55,048人に達して以降、減少傾向で推移しており、2015年には44,258人とにまで減少しています。



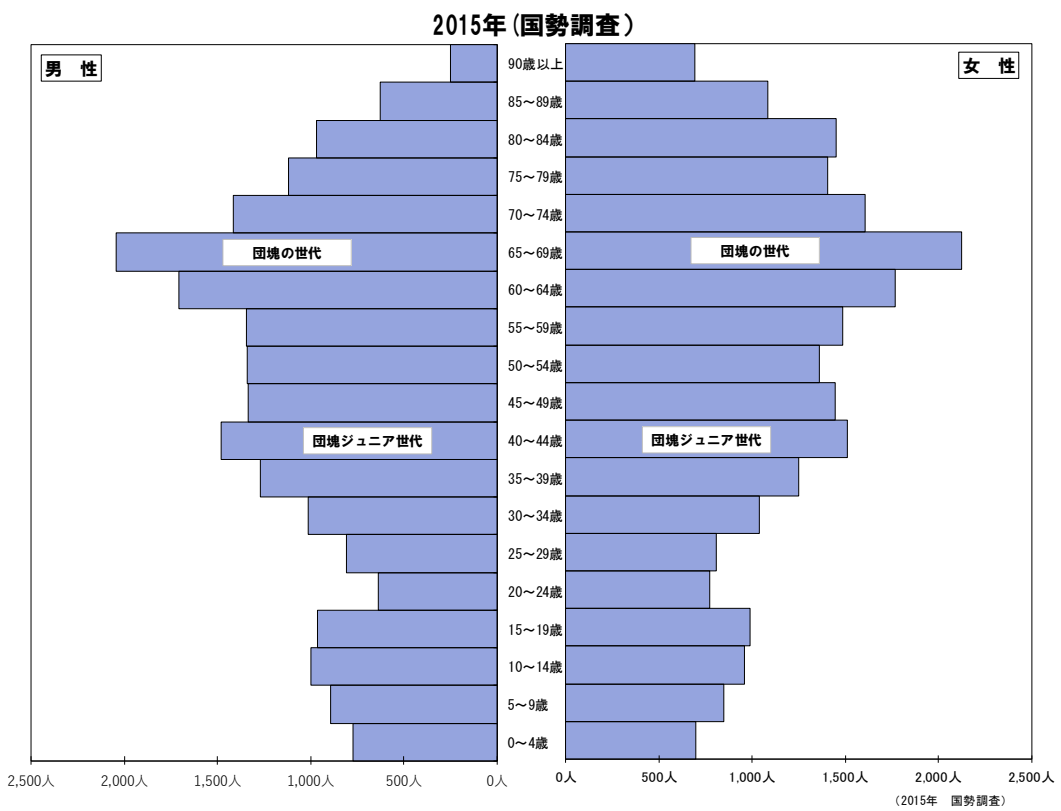
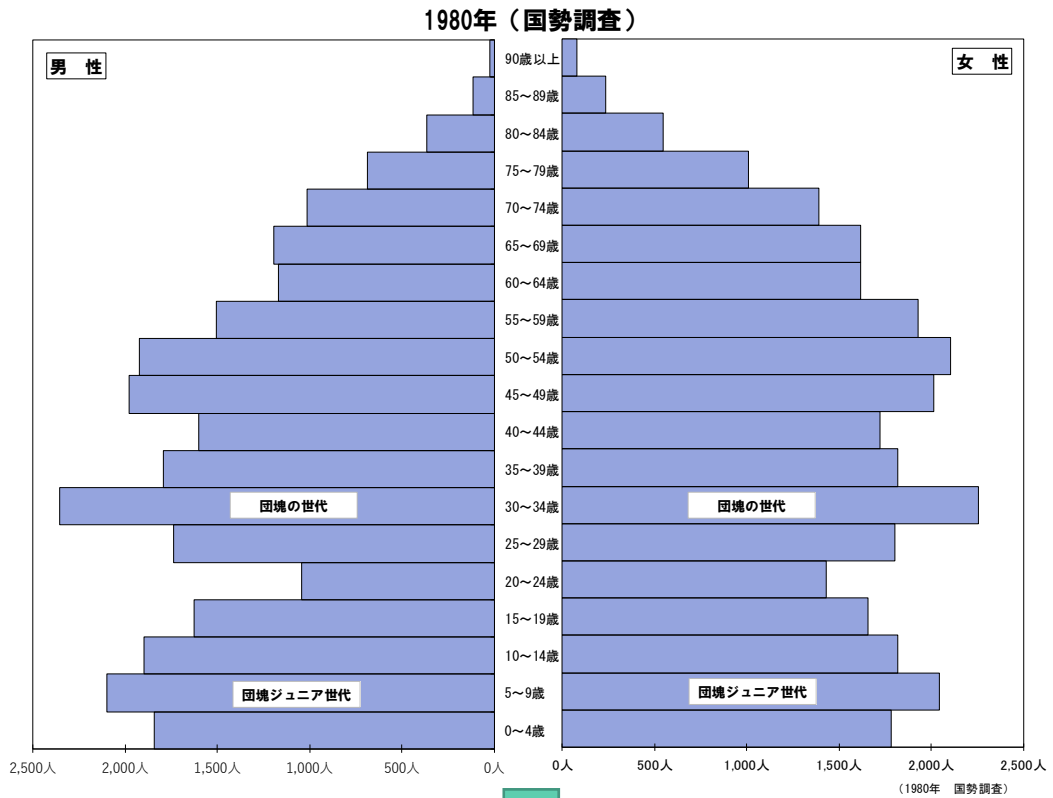
年齢3区分別の比率について1980年から2015年までの動向をみると、年少人口（0～14歳）は20.9%から11.7%へと9.2ポイント減少、生産年齢人口（15～64歳）についても64.0%から54.9%へと9.1%減少している一方で、老年人口（65歳以上）については15.1%から33.4%へと18.3ポイント増加しており、本市においても少子高齢化が進んでいることがわかります。



(単位：人)

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	
総人口	54,826	55,048	54,049	52,839	52,248	50,030	47,254	44,258	
年少人口	0～14歳	20.9%	20.1%	18.0%	16.0%	14.6%	13.8%	12.9%	11.7%
生産年齢人口	15～64歳	64.0%	63.8%	63.9%	63.0%	61.7%	60.4%	58.5%	54.9%
老年人口	65歳以上	15.1%	16.1%	18.1%	21.0%	23.7%	25.7%	28.6%	33.4%

こうした変化を人口ピラミッド（性別・年齢別人口構造）として示すと次のとおりです。



1980年に比べ、2015年では団塊の世代を中心とする人口の膨らみが高齢化するとともに、若い年齢層ほど人口が少なく、ピラミッドに近い形状から底辺の小さな壺型にシフトしています。

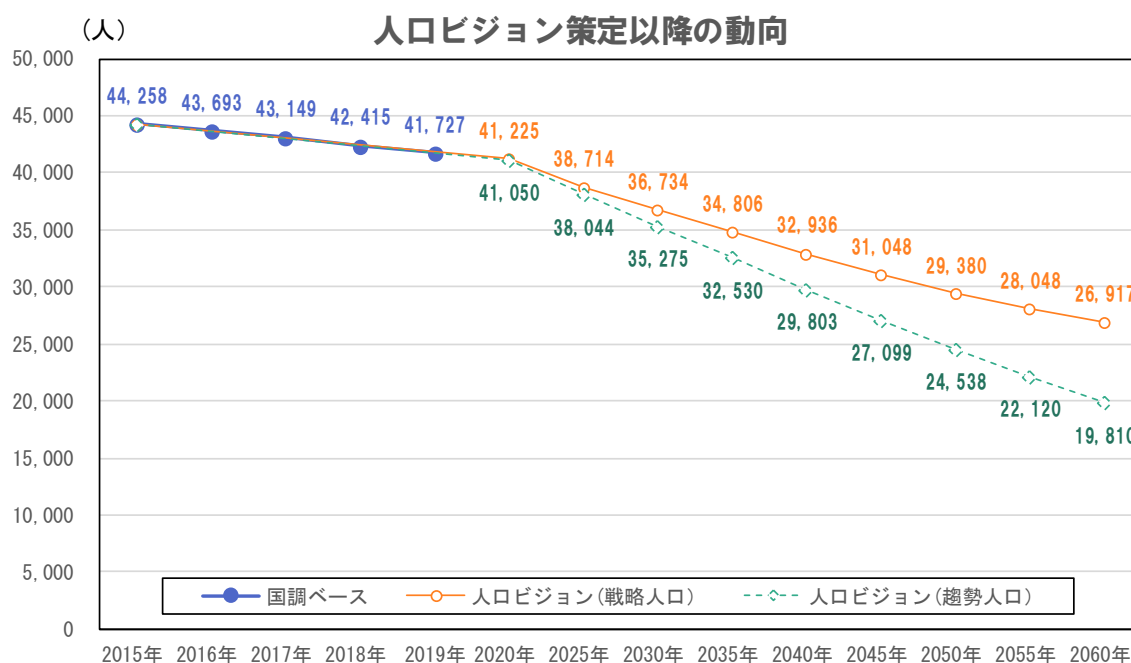
2. 「人口ビジョン」策定以降の動向

(1) 人口の推移

本市では、2015年に「人口ビジョン」を含む「洲本市総合戦略」を策定し、これに基づく様々な人口減少対策に取り組んでいるところです。

「人口ビジョン」では、今後の目標とする戦略人口と、今後の人口減少対策等を加味しない場合に想定される趨勢人口とを示しています。

それに基づけば、趨勢人口は2060年には19,810人程度にまで減少することが見通される中、こうした人口減少を抑制する様々な取り組みを前提に戦略人口として2060年に26,000～27,000人規模の確保を目指すこととなっています。



※国調ベース（各年10月1日現在）は、「兵庫県推計人口」（直近の国勢調査時の人口に、その後の出生・死亡、転入・転出による人口の増減を加算したもの）による。

こうした中で、2015年以降の本市の人口動向（国調ベース）をみると、2015年の44,258人から減少傾向で推移してはいるものの緩やかな減少となっており、2019年時点では41,727人となっています。

(2) 人口動態

人口動態としてみると、自然動態については 2015 年以降、一貫して死亡数が出生数を上回る自然減が続いており、2018 年では 688 人の自然減となっています。

社会動態についても 2015 年以降、転出者数が転入者数を上回る社会減が続いており、2018 年では 355 人の社会減となっています。

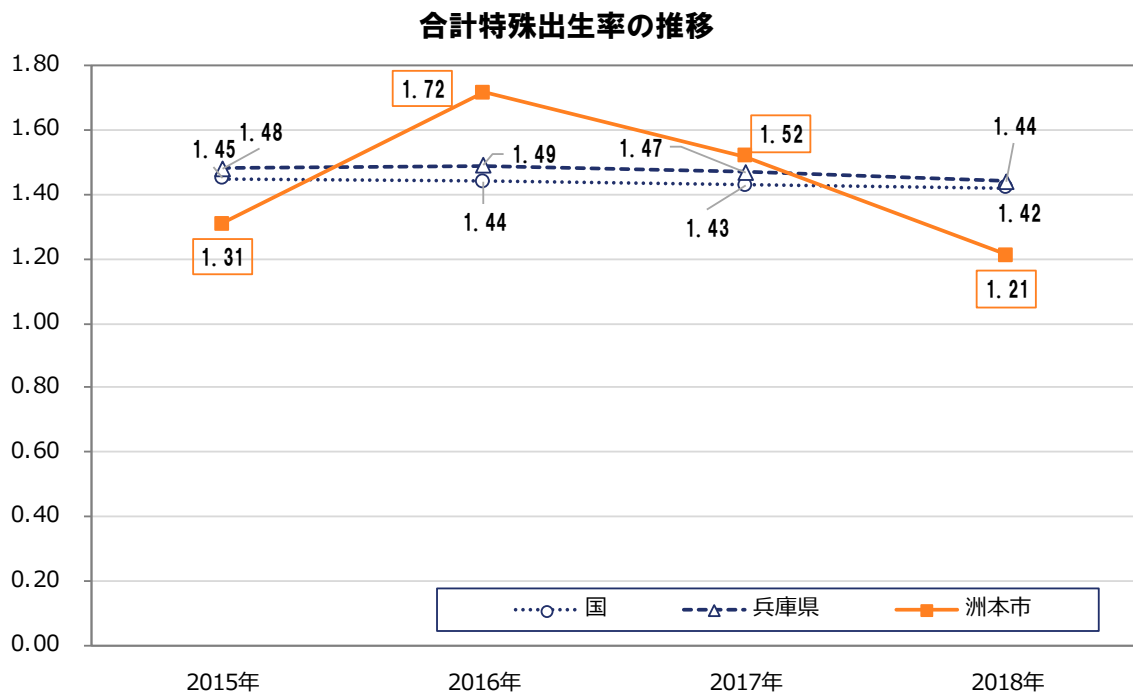
(単位：人)

	総人口	増減 計	自然動態			社会動態		
			増減	出生	死亡	増減	転入	転出
2015年	44,258	-565	-325	328	653	-240	1,451	1,691
2016年	43,693	-544	-353	298	651	-191	1,481	1,672
2017年	43,149	-734	-420	247	667	-314	1,459	1,773
2018年	42,415	-688	-333	274	607	-355	1,543	1,898
2019年	41,727							

※「兵庫県推計人口」により集計。各年は、当年10月から翌年9月までの人口動態。
総人口は、各年10月1日現在。

[出 生]

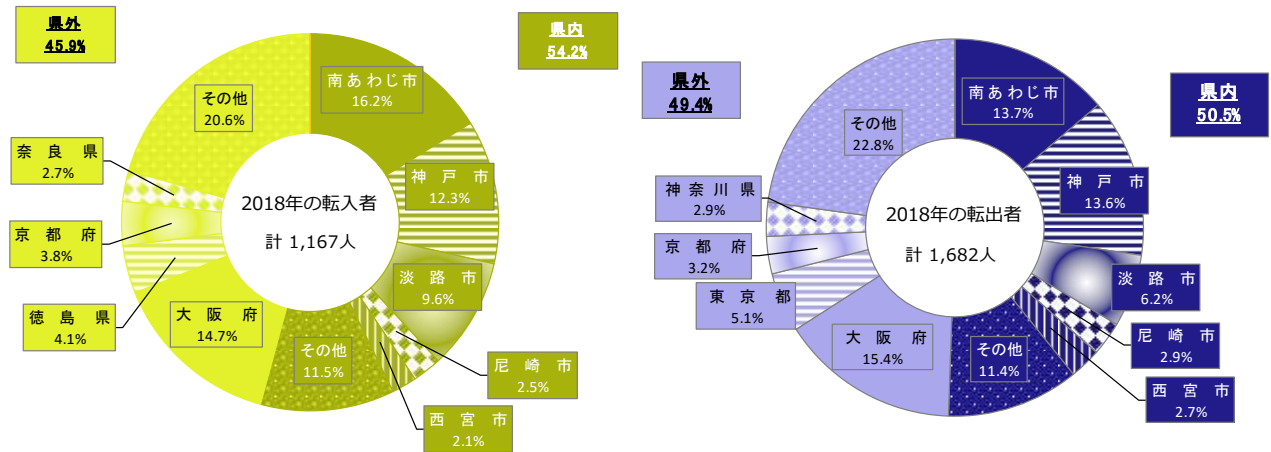
出生の状況について、合計特殊出生率としてみると、2016 年には 1.72 で国や兵庫県の水準を上回っていましたが、2018 年には国や兵庫県の水準を下回る 1.21 に水準となっています。



[転入・転出]

「人口動態統計（2018年）」に基づき、転入・転出の状況をみると、転入については県内からの移動が54.2%、転出についても県内への移動が50.5%といずれも過半数を占めています。

転入元では、南あわじ市が最も多く転入者の16.2%、転出先についても同じく南あわじ市が最も多く転出者の13.7%となっています。



※人口動態統計(2018年)

※人口動態統計(2018年)

転入	総数				男			女				
	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上
都道府県、市区町村												
総数	1,167	16.4%	34.0%	49.6%	605	15.7%	32.9%	51.4%	562	17.1%	35.2%	47.7%
県内合計	633	17.7%	33.2%	49.1%	317	17.0%	32.8%	50.2%	316	18.4%	33.5%	48.1%
神戸市	144	14.6%	31.3%	54.2%	68	11.8%	26.5%	61.8%	76	17.1%	35.5%	47.4%
姫路市	23	17.4%	39.1%	43.5%	11	18.2%	27.3%	54.5%	12	16.7%	50.0%	33.3%
尼崎市	29	13.8%	44.8%	41.4%	18	11.1%	44.4%	44.4%	11	18.2%	45.5%	36.4%
明石市	18	0.0%	33.3%	66.7%	10	0.0%	40.0%	60.0%	8	0.0%	25.0%	75.0%
西宮市	25	8.0%	48.0%	44.0%	11	9.1%	45.5%	45.5%	14	7.1%	50.0%	42.9%
伊丹市	10	10.0%	60.0%	30.0%	5	20.0%	40.0%	40.0%	5	0.0%	80.0%	20.0%
加古川市	17	35.3%	29.4%	35.3%	7	0.0%	42.9%	57.1%	10	60.0%	20.0%	20.0%
南あわじ市	189	23.8%	29.1%	47.1%	92	21.7%	33.7%	44.6%	97	25.8%	24.7%	49.5%
淡路市	112	19.6%	26.8%	53.6%	60	23.3%	25.0%	51.7%	52	15.4%	28.8%	55.8%
その他の市町村	66	10.6%	43.9%	45.5%	35	17.1%	42.9%	40.0%	31	3.2%	45.2%	51.6%
県外合計	534	15.6%	33.6%	50.8%	288	16.3%	30.5%	53.1%	246	14.6%	37.4%	48.0%
東京都	30	20.0%	26.7%	53.3%	16	18.8%	25.0%	56.3%	14	21.4%	28.6%	50.0%
神奈川県	15	6.7%	33.3%	60.0%	9	0.0%	33.3%	66.7%	6	16.7%	33.3%	50.0%
静岡県	11	18.2%	27.3%	54.5%	6	16.7%	33.3%	50.0%	5	20.0%	20.0%	60.0%
愛知県	20	20.0%	55.0%	25.0%	6	33.3%	16.7%	50.0%	14	14.3%	71.4%	14.3%
滋賀県	11	0.0%	72.7%	27.3%	8	0.0%	75.0%	25.0%	3	0.0%	66.7%	33.3%
京都府	44	20.5%	25.0%	54.5%	30	26.7%	20.0%	53.3%	14	7.1%	35.7%	57.1%
大阪府	171	14.6%	32.7%	52.6%	86	15.1%	27.9%	57.0%	85	14.1%	37.6%	48.2%
奈良県	31	16.1%	35.5%	48.4%	17	23.5%	29.4%	47.1%	14	7.1%	42.9%	50.0%
岡山県	19	10.5%	42.1%	47.4%	15	13.3%	46.7%	40.0%	4	0.0%	25.0%	75.0%
広島県	10	0.0%	70.0%	30.0%	6	0.0%	66.7%	33.3%	4	0.0%	75.0%	25.0%
徳島県	48	12.5%	25.0%	62.5%	27	7.4%	25.9%	66.7%	21	19.0%	23.8%	57.1%
愛媛県	13	30.8%	30.8%	38.5%	5	20.0%	20.0%	60.0%	8	37.5%	37.5%	25.0%
福岡県	14	28.6%	21.4%	50.0%	8	37.5%	37.5%	25.0%	6	16.7%	0.0%	83.3%
その他の県	97	11.3%	41.2%	47.4%	49	4.1%	44.9%	51.0%	48	18.8%	37.5%	43.8%

転出	総数			男			女					
	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上	総数	0～19歳	20～29歳	30歳以上
都道府県、市区町村												
総数	1,682	16.7%	42.7%	40.6%	885	16.2%	42.1%	41.7%	797	17.3%	43.3%	39.4%
県内合計	850	20.7%	36.7%	42.6%	425	21.2%	33.6%	45.2%	425	20.2%	39.8%	40.0%
神戸市	229	17.5%	39.7%	42.8%	117	14.5%	39.3%	46.2%	112	20.5%	40.2%	39.3%
姫路市	28	17.9%	53.6%	28.6%	13	15.4%	38.5%	46.2%	15	20.0%	66.7%	13.3%
尼崎市	45	15.6%	42.2%	42.2%	19	21.1%	36.8%	42.1%	26	11.5%	46.2%	42.3%
明石市	49	14.3%	32.7%	53.1%	29	17.2%	31.0%	51.7%	20	10.0%	35.0%	55.0%
西宮市	44	4.5%	72.7%	22.7%	13	7.7%	61.5%	30.8%	31	3.2%	77.4%	19.4%
伊丹市	13	46.2%	15.4%	38.5%	8	50.0%	12.5%	37.5%	5	40.0%	20.0%	40.0%
加古川市	32	12.5%	43.8%	43.8%	16	18.8%	37.5%	43.8%	16	6.3%	50.0%	43.8%
南あわじ市	231	30.7%	24.7%	44.6%	103	34.0%	20.4%	45.6%	128	28.1%	28.1%	43.8%
淡路市	105	22.9%	25.7%	51.4%	64	18.8%	26.6%	54.7%	41	29.3%	24.4%	46.3%
その他の市町村	74	13.5%	52.7%	33.8%	43	16.3%	53.5%	30.2%	31	9.7%	51.6%	38.7%
県外合計	832	12.6%	48.8%	38.6%	460	11.5%	50.0%	38.5%	372	14.0%	47.3%	38.7%
埼玉県	24	8.3%	66.7%	25.0%	20	0.0%	70.0%	30.0%	4	50.0%	50.0%	0.0%
千葉県	26	11.5%	50.0%	38.5%	20	10.0%	50.0%	40.0%	6	16.7%	50.0%	33.3%
東京都	86	8.1%	61.6%	30.2%	52	9.6%	61.5%	28.8%	34	5.9%	61.8%	32.4%
神奈川県	49	4.1%	57.1%	38.8%	33	6.1%	57.6%	36.4%	16	0.0%	56.3%	43.8%
静岡県	18	11.1%	55.6%	33.3%	8	25.0%	37.5%	37.5%	10	0.0%	70.0%	30.0%
愛知県	41	0.0%	58.5%	41.5%	24	0.0%	54.2%	45.8%	17	0.0%	64.7%	35.3%
滋賀県	22	13.6%	45.5%	40.9%	16	6.3%	56.3%	37.5%	6	33.3%	16.7%	50.0%
京都府	54	3.7%	66.7%	29.6%	37	5.4%	67.6%	27.0%	17	0.0%	64.7%	35.3%
大阪府	259	12.4%	45.9%	41.7%	121	12.4%	43.0%	44.6%	138	12.3%	48.6%	39.1%
奈良県	19	42.1%	36.8%	21.1%	10	40.0%	40.0%	20.0%	9	44.4%	33.3%	22.2%
和歌山県	16	25.0%	25.0%	50.0%	3	33.3%	33.3%	33.3%	13	23.1%	23.1%	53.8%
岡山県	22	18.2%	50.0%	31.8%	10	10.0%	50.0%	40.0%	12	25.0%	50.0%	25.0%
広島県	21	9.5%	28.6%	61.9%	12	8.3%	25.0%	66.7%	9	11.1%	33.3%	55.6%
徳島県	39	17.9%	30.8%	51.3%	17	23.5%	23.5%	52.9%	22	13.6%	36.4%	50.0%
香川県	21	33.3%	28.6%	38.1%	10	30.0%	20.0%	50.0%	11	36.4%	36.4%	27.3%
福岡県	11	9.1%	45.5%	45.5%	4	25.0%	25.0%	50.0%	7	0.0%	57.1%	42.9%
その他の県	104	18.3%	44.2%	37.5%	63	14.3%	52.4%	33.3%	41	24.4%	31.7%	43.9%

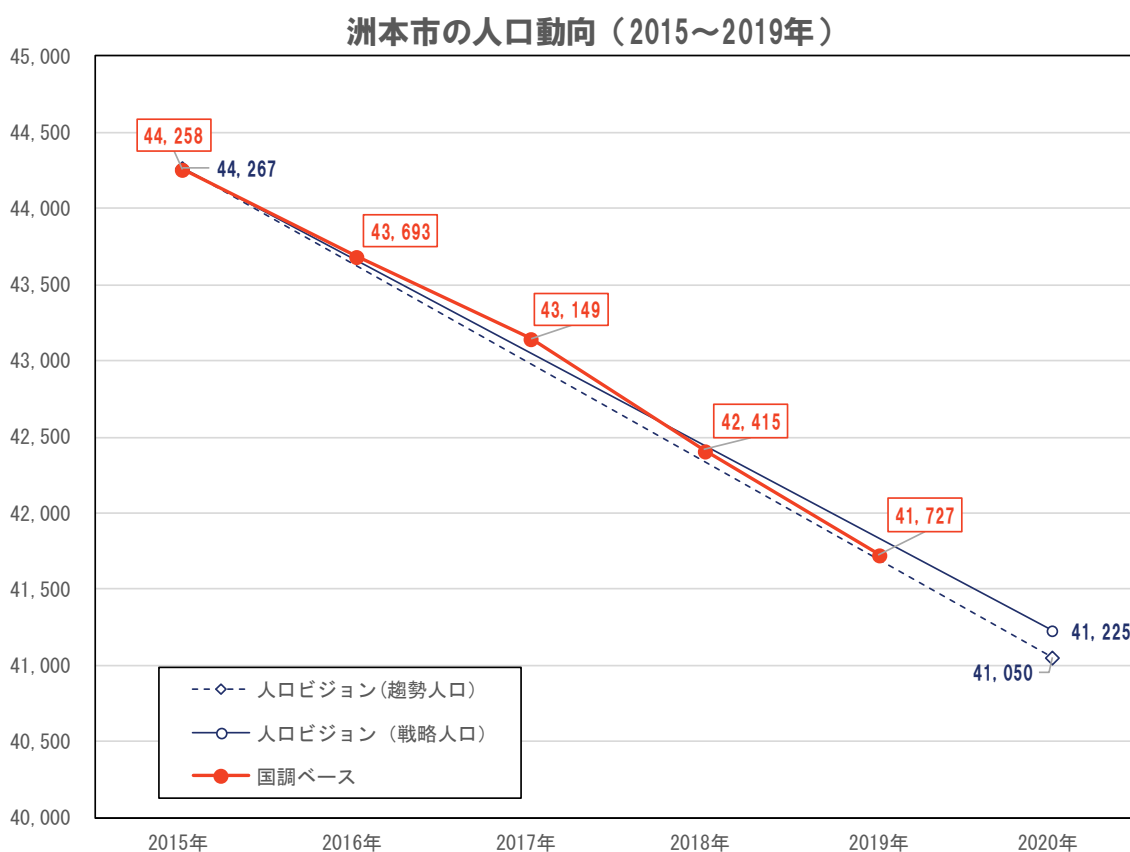
神戸市からの転入について、20～29歳の占める比率が男性では26.5%ですが、女性では35.5%と男性よりも10ポイント近く多くなっており、南あわじ市、あわじ市等からの転入者についても同様の傾向があることから、本市には若い女性を惹きつける定住環境的な魅力があることが窺えます。

3. 「人口ビジョン」の検証

「人口ビジョン」で想定した趨勢人口と実際の国調ベース人口の差分は、「総合戦略」による人口減少抑制効果として捉えることができます。

2017年の169人を最高に2016～2019年の4年間で計279人の抑制効果があったものと考えられます。

一方で、2017年以降は抑制効果人数が縮小傾向にあり、来年に迫った2020年において戦略目標人口とした41,225人を達成できるかどうかは予断を許さない状況です（2020年に想定される人口については後述）。



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
人口ビジョン（趨勢人口） (a)	44,267	43,624	42,980	42,337	41,693	41,050
人口ビジョン（戦略人口） (b)	44,267	43,659	43,050	42,442	41,833	41,225
国調ベース (c)	44,258	43,693	43,149	42,415	41,727	?
総合戦略による人口減少抑制効果 (c - a)	-9	69	169	78	34	?

※ (a) (b) の2016～2019年度欄（斜体表示）は、2015年値と2020年値から直線按分的に算出される経過値

II 洲本市の趨勢人口の検討

1. 社人研による推計

2015年国勢調査結果までを踏まえた国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」と言います。）の「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」に準拠した推計によると、本市の将来人口は、2020年には41,169人、2040年には3万人を割り29,239人、さらに2060年には2万人を割り18,712人にまで減少することが見込まれています。

（単位：人）

社人研 推計準拠	推計人口									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,169	38,108	35,174	32,242	29,239	26,362	23,678	21,141	18,712
0～4歳	1,469	1,307	1,119	1,006	917	835	737	634	545	476
5～9歳	1,740	1,411	1,256	1,076	969	885	807	711	612	526
10～14歳	1,959	1,679	1,362	1,213	1,039	936	855	780	688	591
15～19歳	1,947	1,671	1,432	1,162	1,034	886	798	728	665	586
20～24歳	1,408	1,357	1,161	995	805	718	613	552	504	460
25～29歳	1,617	1,589	1,548	1,353	1,159	938	836	714	643	587
30～34歳	2,051	1,614	1,590	1,558	1,363	1,168	945	842	720	648
35～39歳	2,515	1,981	1,564	1,540	1,513	1,325	1,135	919	818	701
40～44歳	2,993	2,401	1,894	1,496	1,473	1,450	1,270	1,088	881	784
45～49歳	2,780	2,913	2,336	1,844	1,457	1,436	1,415	1,240	1,062	860
50～54歳	2,702	2,689	2,820	2,259	1,785	1,411	1,391	1,372	1,202	1,029
55～59歳	2,827	2,652	2,646	2,777	2,224	1,758	1,391	1,372	1,354	1,186
60～64歳	3,471	2,806	2,644	2,647	2,782	2,226	1,761	1,393	1,374	1,355
65～69歳	4,172	3,333	2,702	2,552	2,562	2,696	2,158	1,707	1,350	1,332
70～74歳	3,021	3,942	3,156	2,568	2,432	2,449	2,581	2,065	1,634	1,292
75～79歳	2,521	2,750	3,606	2,894	2,369	2,251	2,277	2,399	1,919	1,519
80～84歳	2,418	2,143	2,361	3,131	2,517	2,080	1,990	2,015	2,122	1,697
85～89歳	1,706	1,744	1,575	1,764	2,385	1,918	1,609	1,537	1,559	1,640
90歳以上	941	1,187	1,336	1,339	1,457	1,873	1,793	1,610	1,489	1,443
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	9.8%	9.4%	9.1%	9.1%	9.1%	9.0%	8.7%	8.5%
15～64歳	54.9%	52.6%	51.5%	50.1%	48.4%	45.5%	43.8%	43.2%	43.6%	43.8%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.4%	14.6%	15.5%	17.6%	18.0%	15.9%	14.1%	14.0%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.3%	26.0%	27.1%	27.8%	29.1%	31.9%	33.5%	33.7%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.7%	40.5%	42.6%	45.4%	47.1%	47.9%	47.6%	47.7%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

出生パラメータ	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
子ども女性比	0.18950	0.18912	0.19530	0.19957	0.19981	0.19823	0.19662	0.19400	0.19364

※社人研推計では市町村レベルの出生推計に関して子ども女性比による手法を採用し、合計特殊出生率は用いていない。

移動パラメータ	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
生涯定住率 男	0.54861	0.55903	0.56349	0.56626	0.56711	0.55679	0.55679	0.55679	0.55679
生涯定住率 女	0.56848	0.58074	0.60201	0.60438	0.60594	0.59398	0.59398	0.59398	0.59398

[純定住率と生涯定住率について]

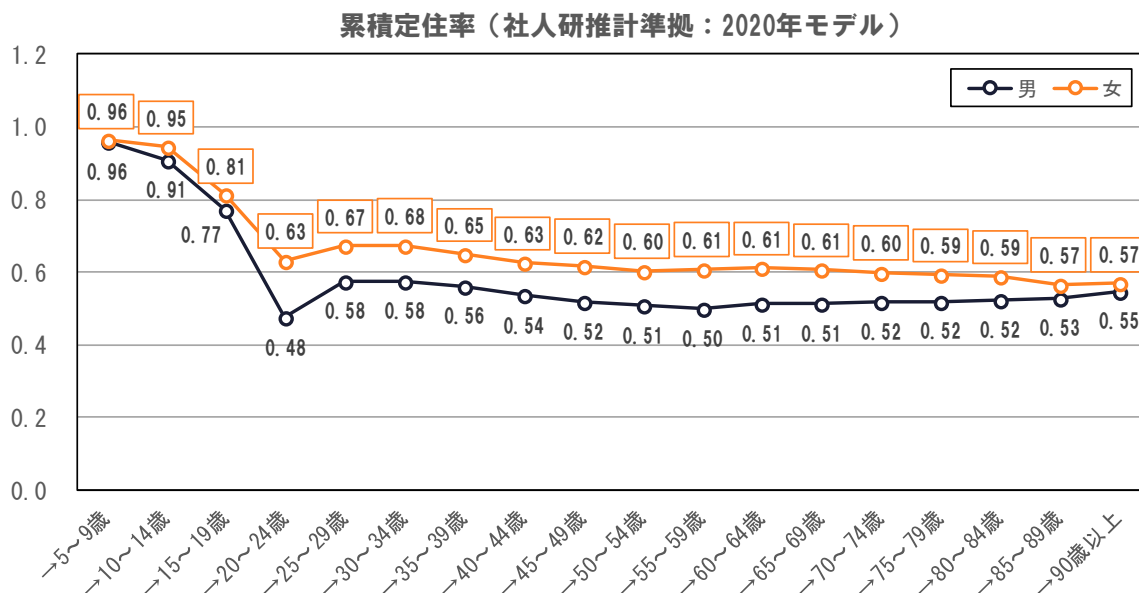
移動パラメータについては、一般的に純移動率（性別・年齢区分別）が用いられますが、ここでは、この純移動率にそれぞれ1を加算した値を純定住率として定義します。

例えば、2020年の男性の“0～4歳→5～9歳”の純定住率は「0.95926」となっており、これは2015年の“0～4歳”が2020年に“5～9歳”になる間に移動により人口が0.95926倍になることを示しています。さらに、2020年の男性の年齢別の純定住率をすべて乗じると0.54861となり、これは本市の男性の“0～4歳”人口が“90歳以上”になるまでに移動により0.54861倍になることを示しています（生涯定住率）。

移動パラメータ	仮定値(社人研推計準拠)								
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
純定住率 男									
0～4歳→5～9歳	0.95926	0.96075	0.96135	0.96244	0.96353	0.96443	0.96443	0.96443	0.96443
5～9歳→10～14歳	0.94921	0.94952	0.94965	0.94969	0.94981	0.94992	0.94992	0.94992	0.94992
10～14歳→15～19歳	0.84812	0.84759	0.84745	0.84735	0.84697	0.84670	0.84670	0.84670	0.84670
15～19歳→20～24歳	0.61556	0.61575	0.61518	0.61489	0.61470	0.61412	0.61412	0.61412	0.61412
20～24歳→25～29歳	1.21479	1.22866	1.23276	1.23383	1.23477	1.23616	1.23616	1.23616	1.23616
25～29歳→30～34歳	0.99660	0.99932	1.00406	1.00555	1.00533	1.00559	1.00559	1.00559	1.00559
30～34歳→35～39歳	0.97710	0.97984	0.98022	0.98271	0.98344	0.98349	0.98349	0.98349	0.98349
35～39歳→40～44歳	0.95398	0.95462	0.95534	0.95530	0.95659	0.95699	0.95699	0.95699	0.95699
40～44歳→45～49歳	0.96860	0.96775	0.96780	0.96837	0.96825	0.96926	0.96926	0.96926	0.96926
45～49歳→50～54歳	0.97697	0.97781	0.97591	0.97591	0.97662	0.97670	0.97670	0.97670	0.97670
50～54歳→55～59歳	0.98635	0.98734	0.98743	0.98657	0.98655	0.98680	0.98680	0.98680	0.98680
55～59歳→60～64歳	1.02701	1.03143	1.03475	1.03459	1.03215	1.03235	1.03235	1.03235	1.03235
60～64歳→65～69歳	0.99952	0.99987	1.00121	1.00243	1.00204	1.00113	1.00113	1.00113	1.00113
65～69歳→70～74歳	1.01099	1.00985	1.01165	1.01292	1.01431	1.01383	1.01383	1.01383	1.01383
70～74歳→75～79歳	1.00154	1.00201	0.99942	1.00064	1.00158	1.00261	1.00261	1.00261	1.00261
75～79歳→80～84歳	1.00638	1.00570	1.00933	1.00177	1.00286	1.00488	1.00488	1.00488	1.00488
80～84歳→85～89歳	1.01147	1.01122	1.01055	1.01544	1.00348	1.00513	1.00513	1.00513	1.00513
85歳以上→90歳以上	1.03559	1.03109	1.02512	1.02400	1.03323	1.00785	1.00785	1.00785	1.00785
生涯定住率(累積)	0.54861	0.55903	0.56349	0.56626	0.56711	0.55679	0.55679	0.55679	0.55679
純定住率 女									
0～4歳→5～9歳	0.96273	0.96366	0.96428	0.96539	0.96647	0.96736	0.96736	0.96736	0.96736
5～9歳→10～14歳	0.98214	0.98356	0.98359	0.98373	0.98411	0.98450	0.98450	0.98450	0.98450
10～14歳→15～19歳	0.85950	0.85894	0.85889	0.85844	0.85789	0.85746	0.85746	0.85746	0.85746
15～19歳→20～24歳	0.77975	0.77936	0.77759	0.77701	0.77552	0.77351	0.77351	0.77351	0.77351
20～24歳→25～29歳	1.06141	1.07730	1.11314	1.11265	1.11314	1.11157	1.11157	1.11157	1.11157
25～29歳→30～34歳	1.00462	1.00651	1.01259	1.01270	1.01259	1.01348	1.01348	1.01348	1.01348
30～34歳→35～39歳	0.96089	0.96314	0.96339	0.96628	0.96627	0.96655	0.96655	0.96655	0.96655
35～39歳→40～44歳	0.96377	0.96436	0.96497	0.96485	0.96633	0.96630	0.96630	0.96630	0.96630
40～44歳→45～49歳	0.99016	0.99004	0.98996	0.99024	0.99008	0.99126	0.99126	0.99126	0.99126
45～49歳→50～54歳	0.97599	0.97627	0.97584	0.97577	0.97591	0.97598	0.97598	0.97598	0.97598
50～54歳→55～59歳	1.00671	1.00819	1.00872	1.00778	1.00763	1.00796	1.00796	1.00796	1.00796
55～59歳→60～64歳	1.00442	1.00651	1.00802	1.00849	1.00766	1.00764	1.00764	1.00764	1.00764
60～64歳→65～69歳	0.99288	0.99313	0.99389	0.99457	0.99466	0.99424	0.99424	0.99424	0.99424
65～69歳→70～74歳	0.98828	0.98757	0.98795	0.98821	0.98843	0.98823	0.98823	0.98823	0.98823
70～74歳→75～79歳	0.98950	0.99006	0.98838	0.98869	0.98945	0.99017	0.99017	0.99017	0.99017
75～79歳→80～84歳	0.99102	0.99160	0.99402	0.98952	0.99024	0.99162	0.99162	0.99162	0.99162
80～84歳→85～89歳	0.96484	0.96545	0.96697	0.97094	0.96217	0.96344	0.96344	0.96344	0.96344
85歳以上→90歳以上	1.00139	0.99676	0.98982	0.99062	1.00060	0.97857	0.97857	0.97857	0.97857
生涯定住率(累積)	0.56848	0.58074	0.60201	0.60438	0.60594	0.59398	0.59398	0.59398	0.59398

同様に、例えば、“0～4歳→5～9歳”から“20～24歳→25～29歳”までのすべての純定住率を乗じることで、“0～4歳”人口が“25～29歳”になるまでに移動によるどの程度に変化するかを示す値として捉えることができます（累積定住率）。

こうした考え方にに基づき、社人研推計準拠による本市の移動特性を累積定住率として示すと次のとおりです。



これをみると、男女ともに“15～19歳→20～24歳”における転出が大きく、“10～24歳→25～29歳”ではUターン等による転入によりいくらか盛り返し、その後はおおそ安定的に推移することがわかります。

また、“15～19歳→20～24歳”において男性の累積定住率は0.48にまで下がるのに対し、女性ではこれが0.63の水準であることを含め、すべての年代において女性の累積定住率が男性のそれを上回っています。出生に大きく関わる女性の定住率が男性を上回ることを本市の強みとして捉えることもできそうです。

2. 趨勢人口の推計

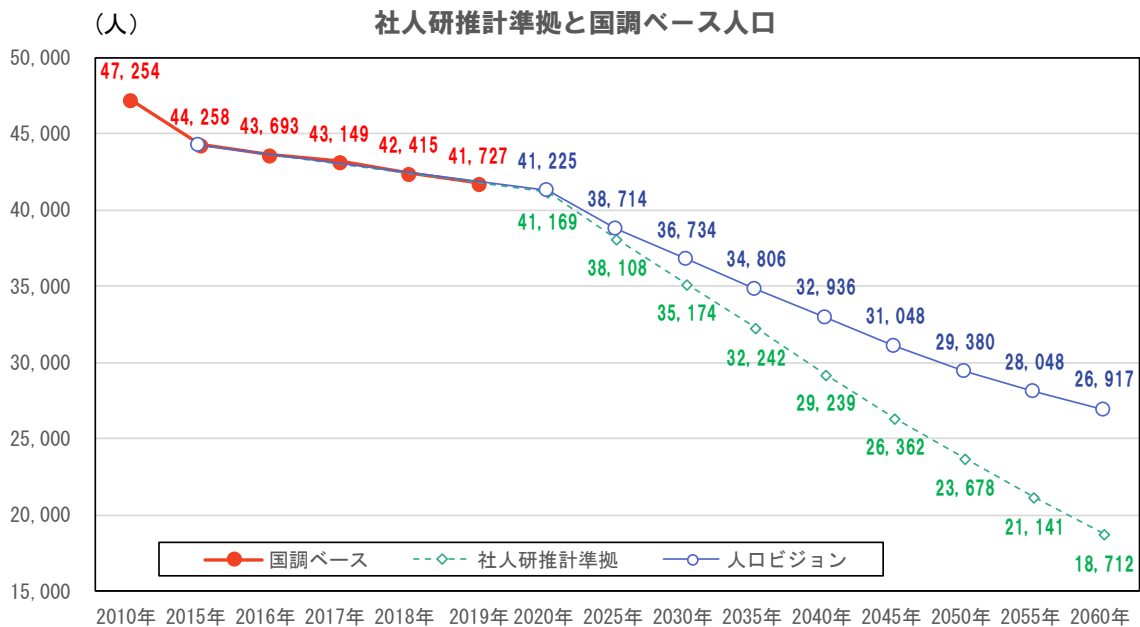
趨勢人口とは、今後、特段の人口政策効果等を見込まない場合に将来的に想定される人口のことです。

先に示した社人研推計準拠による将来人口は、考え方としてはこの趨勢人口に相当しますが、ここでは、これをベースに、2015年以降の人口動向を踏まえた検討・推計を行います。

(1) 「兵庫県推計人口」に基づく社人研推計準拠の検証

兵庫県では、国勢調査の人口を基に、住民基本台帳法の規定に基づく移動状況を加減して推計された市町別人口を毎月（各月1日現在）、集計・公表しており、これは市町の国調ベースの人口として見做すことができます。

この「兵庫県推計人口」による本市の2015年以降の国調ベース人口と社人研推計準拠による推計とをみると次のようになっています。



国調ベース人口の年間変化率をみると98%台で推移しており、仮に2019年の変化率で推移すると2020年の人口は41,050人程度となることが想定されます。

これは、社人研が想定する2020年の人口41,169人を100人以上下回るため、本市の趨勢人口としては2020年の人口が41,050人程度となるような補正を行う必要があります。

(単位：人)

総人口	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
社人研推計準拠	44,258					41,169
国調ベース	44,258	43,693	43,149	42,415	41,727	41,050

年間変化率	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
		98.7%	98.8%	98.3%	98.4%

(2) 社人研推計準拠の補正による趨勢人口

社人研推計準拠において採用された各種パラメータの修正・調整等を通じて、2020年の推計人口が41,050人程度となるように補正を行い、これを本市の趨勢人口とします。

[出生パラメータについて]

社人研推計準拠では、合計特殊出生率ではなく、子ども女性比を用いた推計を行っていますが、趨勢人口の推計においては、パラメータとしての認知度の高さ等を踏まえ、合計特殊出生率を用いる手法に変更します。

社人研推計準拠では、出生数の推計に合計特殊出生率を用いていないものの、子ども女性比の仮定値から経験的に換算される合計特殊出生率を参考値として示しており、この換算された合計特殊出生率を踏まえ、本市において今後趨勢的に想定される合計特殊出生率を次表のように算出し、仮定値として用います。なお、2015年欄の合計特殊出生率は、2015年国勢調査結果より想定される本市の2010～2015年の合計特殊出生率水準です。

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
子ども女性比	0.18833	0.18950	0.18912	0.19530	0.19957	0.19981	0.19823	0.19823	0.19823	0.19823
子ども女性比から 合計特殊出生率への換算率		7.43397	7.37580	7.16962	7.04755	7.05330	7.12486	7.18316	7.28024	7.29372
換算率を用いた 合計特殊出生率の変化分		0.01	0.00	0.04	0.03	0.00	-0.01	0.00	0.00	0.00



合計特殊出生率	1.54	1.55	1.55	1.59	1.62	1.62	1.61	1.61	1.61	1.61
---------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

※子ども女性比は、社人研の仮定値であり、社人研では合計特殊出生率を用いた推計を行っていない。
 ※換算率は、国配布の人口推計ツールにおいて仮定されている子ども女性比から合計特殊出生率への換算率。
 ※2015年の合計特殊出生率は、2015年の国勢調査結果より想定される2010～2015年の合計特殊出生率。

[死亡パラメータについて]

死亡パラメータについては、社人研推計準拠において仮定された生残率をそのまま用いることとします。

[移動パラメータについて]

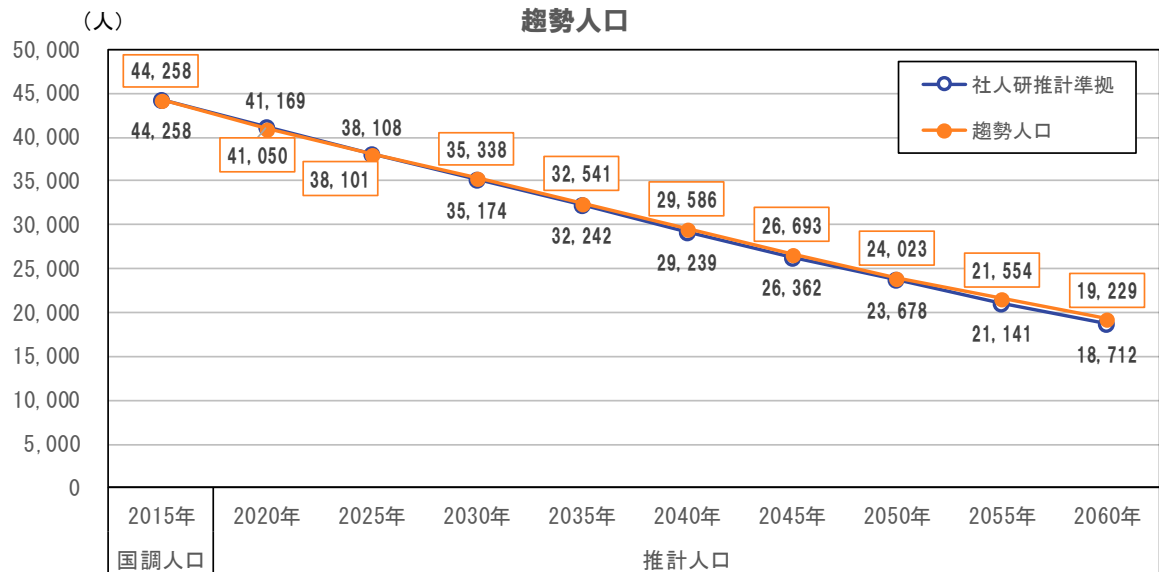
上記の出生パラメータ、死亡パラメータを採用・設定した上で、移動パラメータとしての生涯定住率の操作により、2020年の人口が41,050人程度となるように、社人研の純移動率仮定値に基づく2020年の純定住率を補正しました（補正率95.5%）。

こうした補正を行った純定住率については、次のとおりです。

移動パラメータ	仮定値(趨勢人口)								
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
純定住率 男									
0～4歳→5～9歳	0.95681	0.96075	0.96135	0.96244	0.96353	0.96443	0.96443	0.96443	0.96443
5～9歳→10～14歳	0.94679	0.94952	0.94965	0.94969	0.94981	0.94992	0.94992	0.94992	0.94992
10～14歳→15～19歳	0.84595	0.84759	0.84745	0.84735	0.84697	0.84670	0.84670	0.84670	0.84670
15～19歳→20～24歳	0.61399	0.61575	0.61518	0.61489	0.61470	0.61412	0.61412	0.61412	0.61412
20～24歳→25～29歳	1.21169	1.22866	1.23276	1.23383	1.23477	1.23616	1.23616	1.23616	1.23616
25～29歳→30～34歳	0.99405	0.99932	1.00406	1.00555	1.00533	1.00559	1.00559	1.00559	1.00559
30～34歳→35～39歳	0.97460	0.97984	0.98022	0.98271	0.98344	0.98349	0.98349	0.98349	0.98349
35～39歳→40～44歳	0.95154	0.95462	0.95534	0.95530	0.95659	0.95699	0.95699	0.95699	0.95699
40～44歳→45～49歳	0.96613	0.96775	0.96780	0.96837	0.96825	0.96926	0.96926	0.96926	0.96926
45～49歳→50～54歳	0.97447	0.97781	0.97591	0.97591	0.97662	0.97670	0.97670	0.97670	0.97670
50～54歳→55～59歳	0.98383	0.98734	0.98743	0.98657	0.98655	0.98680	0.98680	0.98680	0.98680
55～59歳→60～64歳	1.02439	1.03143	1.03475	1.03459	1.03215	1.03235	1.03235	1.03235	1.03235
60～64歳→65～69歳	0.99697	0.99987	1.00121	1.00243	1.00204	1.00113	1.00113	1.00113	1.00113
65～69歳→70～74歳	1.00841	1.00985	1.01165	1.01292	1.01431	1.01383	1.01383	1.01383	1.01383
70～74歳→75～79歳	0.99898	1.00201	0.99942	1.00064	1.00158	1.00261	1.00261	1.00261	1.00261
75～79歳→80～84歳	1.00381	1.00570	1.00933	1.00177	1.00286	1.00488	1.00488	1.00488	1.00488
80～84歳→85～89歳	1.00889	1.01122	1.01055	1.01544	1.00348	1.00513	1.00513	1.00513	1.00513
85歳以上→90歳以上	1.03294	1.03109	1.02512	1.02400	1.03323	1.00785	1.00785	1.00785	1.00785
生涯定住率(累積)	0.52393	0.55903	0.56349	0.56626	0.56711	0.55679	0.55679	0.55679	0.55679
純定住率 女									
0～4歳→5～9歳	0.96027	0.96366	0.96428	0.96539	0.96647	0.96736	0.96736	0.96736	0.96736
5～9歳→10～14歳	0.97963	0.98356	0.98359	0.98373	0.98411	0.98450	0.98450	0.98450	0.98450
10～14歳→15～19歳	0.85730	0.85894	0.85889	0.85844	0.85789	0.85746	0.85746	0.85746	0.85746
15～19歳→20～24歳	0.77776	0.77936	0.77759	0.77701	0.77552	0.77351	0.77351	0.77351	0.77351
20～24歳→25～29歳	1.05870	1.07730	1.11314	1.11265	1.11314	1.11157	1.11157	1.11157	1.11157
25～29歳→30～34歳	1.00205	1.00651	1.01259	1.01270	1.01259	1.01348	1.01348	1.01348	1.01348
30～34歳→35～39歳	0.95844	0.96314	0.96339	0.96628	0.96627	0.96655	0.96655	0.96655	0.96655
35～39歳→40～44歳	0.96131	0.96436	0.96497	0.96485	0.96633	0.96630	0.96630	0.96630	0.96630
40～44歳→45～49歳	0.98763	0.99004	0.98996	0.99024	0.99008	0.99126	0.99126	0.99126	0.99126
45～49歳→50～54歳	0.97350	0.97627	0.97584	0.97577	0.97591	0.97598	0.97598	0.97598	0.97598
50～54歳→55～59歳	1.00414	1.00819	1.00872	1.00778	1.00763	1.00796	1.00796	1.00796	1.00796
55～59歳→60～64歳	1.00185	1.00651	1.00802	1.00849	1.00766	1.00764	1.00764	1.00764	1.00764
60～64歳→65～69歳	0.99034	0.99313	0.99389	0.99457	0.99466	0.99424	0.99424	0.99424	0.99424
65～69歳→70～74歳	0.98576	0.98757	0.98795	0.98821	0.98843	0.98823	0.98823	0.98823	0.98823
70～74歳→75～79歳	0.98697	0.99006	0.98838	0.98869	0.98945	0.99017	0.99017	0.99017	0.99017
75～79歳→80～84歳	0.98849	0.99160	0.99402	0.98952	0.99024	0.99162	0.99162	0.99162	0.99162
80～84歳→85～89歳	0.96238	0.96545	0.96697	0.97094	0.96217	0.96344	0.96344	0.96344	0.96344
85歳以上→90歳以上	0.99883	0.99676	0.98982	0.99062	1.00060	0.97857	0.97857	0.97857	0.97857
生涯定住率(累積)	0.54290	0.58074	0.60201	0.60438	0.60594	0.59398	0.59398	0.59398	0.59398

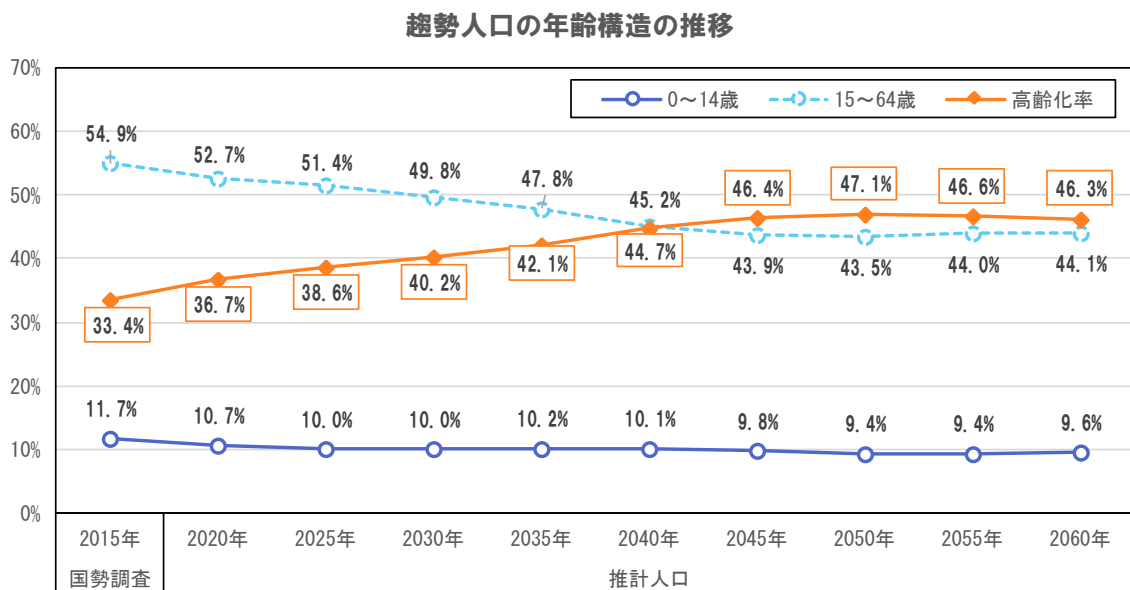
[補正による趨勢人口]

こうした補正により、本町の趨勢人口は次のようになり、2020年に41,050人となった後、2040年には29,586人、2060年には19,229人への減少することが想定されます。



また、年齢別の動向については、年少人口（0～14歳）は徐々に減少するものの概ね10%前後の水準で推移し、生産年齢人口（15～64歳）については2050年までに43.5%にまで減少した後はほぼ安定的に推移することが想定されます。

一方、老年人口（65歳以上）の高齢化率については2050年に47.1%に達し、その後は緩やかに減少する見込みです。



(単位：人)

趨勢人口	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,101	35,338	32,541	29,586	26,693	24,023	21,554	19,229
0～4歳	1,469	1,297	1,216	1,166	1,049	895	765	689	638	587
5～9歳	1,740	1,407	1,247	1,170	1,123	1,012	864	739	665	616
10～14歳	1,959	1,674	1,358	1,205	1,131	1,085	978	835	714	643
15～19歳	1,947	1,667	1,428	1,158	1,027	964	924	833	711	608
20～24歳	1,408	1,354	1,159	992	802	712	667	640	577	492
25～29歳	1,617	1,585	1,545	1,350	1,155	935	829	777	745	673
30～34歳	2,051	1,610	1,586	1,555	1,360	1,164	942	835	783	751
35～39歳	2,515	1,977	1,560	1,537	1,510	1,323	1,132	916	812	761
40～44歳	2,993	2,395	1,890	1,492	1,470	1,447	1,269	1,085	878	778
45～49歳	2,780	2,906	2,330	1,840	1,453	1,433	1,412	1,239	1,059	857
50～54歳	2,702	2,681	2,813	2,253	1,781	1,407	1,388	1,369	1,201	1,026
55～59歳	2,827	2,646	2,639	2,770	2,218	1,754	1,387	1,369	1,351	1,185
60～64歳	3,471	2,799	2,638	2,640	2,775	2,220	1,757	1,389	1,371	1,352
65～69歳	4,172	3,325	2,695	2,546	2,556	2,689	2,152	1,703	1,346	1,329
70～74歳	3,021	3,930	3,148	2,562	2,427	2,443	2,574	2,060	1,630	1,288
75～79歳	2,521	2,742	3,595	2,888	2,363	2,246	2,273	2,392	1,914	1,516
80～84歳	2,418	2,136	2,354	3,122	2,512	2,075	1,986	2,012	2,116	1,692
85～89歳	1,706	1,739	1,570	1,759	2,378	1,915	1,606	1,534	1,557	1,635
90歳以上	941	1,180	1,330	1,333	1,451	1,867	1,788	1,607	1,486	1,440
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.0%	10.0%	10.2%	10.1%	9.8%	9.4%	9.4%	9.6%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.4%	49.8%	47.8%	45.2%	43.9%	43.5%	44.0%	44.1%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.3%	14.5%	15.3%	17.3%	17.7%	15.7%	13.8%	13.6%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.2%	25.8%	26.7%	27.4%	28.7%	31.4%	32.8%	32.7%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.6%	40.2%	42.1%	44.7%	46.4%	47.1%	46.6%	46.3%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

Ⅲ 洲本市の将来人口シミュレーション

1. 将来人口シミュレーションについて

趨勢人口をベースに、今後の人口減少対策の効果等を想定した将来人口のシミュレーションを行います。

人口シミュレーション（シナリオ1～シナリオ3）における出生・死亡・移動に関する仮定は次のとおりです。

[出生パラメータ]

出生に関しては、現行「人口ビジョン」における設定を踏まえ、シナリオ1～シナリオ3のいずれにおいても、合計特殊出生率が2025年に1.80、2030年以降は2.10と仮定します。

[死亡パラメータ]

死亡に関しては、シナリオ1～シナリオ3のいずれにおいても、趨勢人口において採用した社人研推計準拠による生残率仮定値を採用します。

[移動パラメータ]

移動に関しては、年代別の累積定住率について次のように仮定します。

累積定住率	0～4歳⇒10～14歳	10～14歳⇒25～29歳	25～29歳⇒90歳以上
趨勢人口	全期間を通じ、男性が0.91程度、女性が0.95程度の水準	全期間を通じ、男性が0.63程度、女性が0.72程度の水準	全期間を通じ、男性が0.93程度、女性が0.83程度の水準
シナリオ1	趨勢人口の仮定と同様	趨勢人口の仮定と同様	趨勢人口の仮定と同様
シナリオ2	男女ともに2040年までに1.0に上昇（以降1.0維持）	男女ともに2040年までに0.95に上昇、2060年までに1.0に上昇	男女ともに2040年までに1.0に上昇（以降1.0維持）
シナリオ3	男女ともに2035年までに1.0に上昇（以降1.0維持）	男女ともに2035年までに0.95に上昇、2045年までに1.0に上昇	男女ともに2035年までに1.0に上昇（以降1.0維持）

生涯定住率としてみると次のようになります。

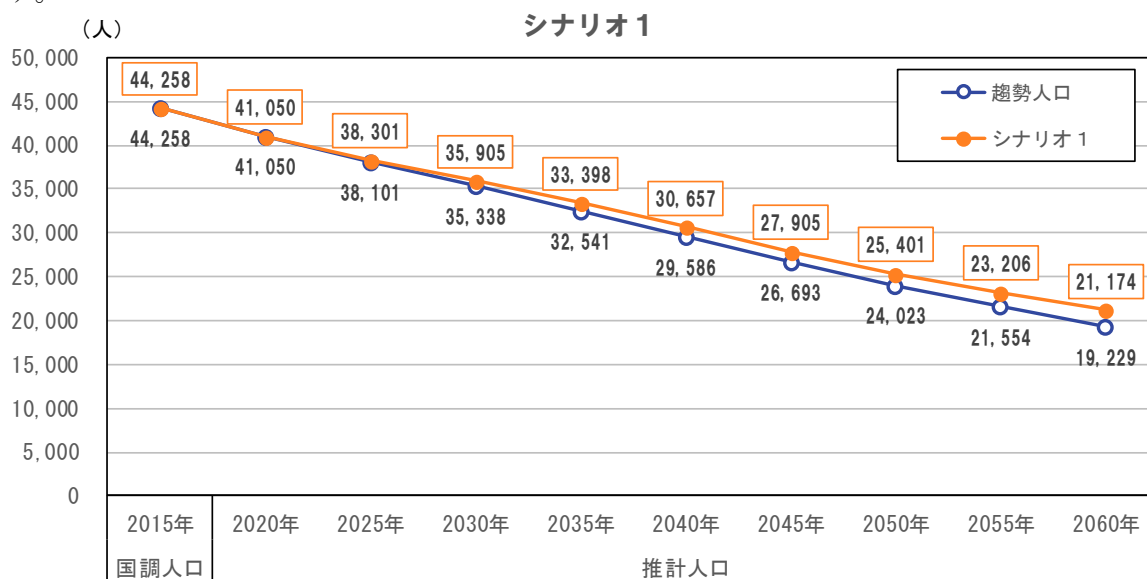
趨勢人口	生涯定住率は2060年で男性0.56程度、女性0.59程度
シナリオ1	生涯定住率は2060年で男性0.56程度、女性0.59程度
シナリオ2	生涯定住率が男女ともに2060年には1.00に上昇
シナリオ3	生涯定住率が男女ともに2045年には1.00に上昇

2. 将来人口シミュレーション結果

(1) シナリオ1

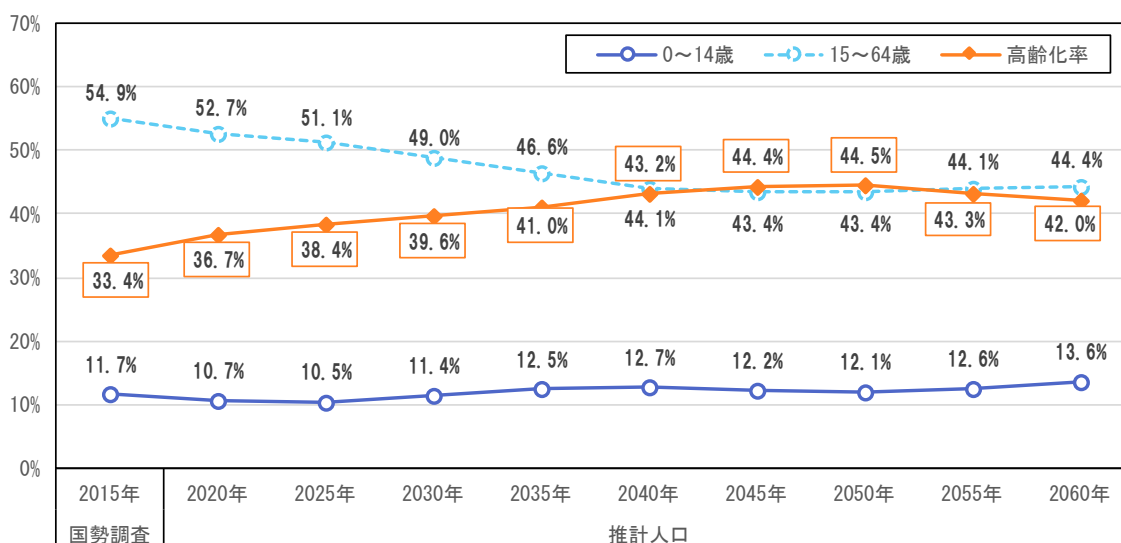
シナリオ1は、移動については趨勢人口と同様で、合計特殊出生率のみが上昇することを想定したシナリオです。

合計特殊出生率が上昇することで、趨勢人口に比べ人口減少がやや緩やかになります。2060年に想定される人口は21,174人で、趨勢人口に比べ1,900人程度の増加にとどまります。



年齢構造については、合計特殊出生率が改善することで、年少人口の減少が抑制され、2060年において13.6%に回復することが想定されるとともに、高齢化率についても2050年の44.5%をピークに2060年には42.0%に減少することが想定されます。

シナリオ1の年齢構造の推移

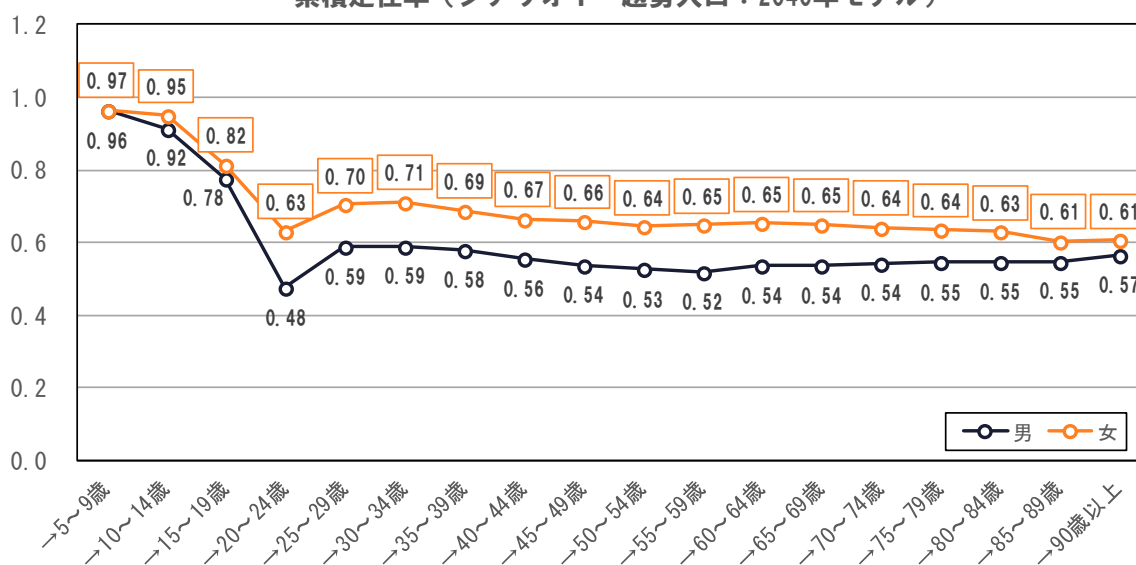


(単位：人)

シナリオ 1	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,301	35,905	33,398	30,657	27,905	25,401	23,206	21,174
0～4歳	1,469	1,297	1,416	1,541	1,359	1,161	1,024	991	1,007	979
5～9歳	1,740	1,407	1,247	1,362	1,485	1,310	1,121	988	957	972
10～14歳	1,959	1,674	1,358	1,205	1,316	1,435	1,266	1,083	955	925
15～19歳	1,947	1,667	1,428	1,158	1,027	1,121	1,222	1,078	922	813
20～24歳	1,408	1,354	1,159	992	802	712	777	846	747	638
25～29歳	1,617	1,585	1,545	1,350	1,155	935	829	905	985	870
30～34歳	2,051	1,610	1,586	1,555	1,360	1,164	942	835	912	992
35～39歳	2,515	1,977	1,560	1,537	1,510	1,323	1,132	916	812	887
40～44歳	2,993	2,395	1,890	1,492	1,470	1,447	1,269	1,085	878	778
45～49歳	2,780	2,906	2,330	1,840	1,453	1,433	1,412	1,239	1,059	857
50～54歳	2,702	2,681	2,813	2,253	1,781	1,407	1,388	1,369	1,201	1,026
55～59歳	2,827	2,646	2,639	2,770	2,218	1,754	1,387	1,369	1,351	1,185
60～64歳	3,471	2,799	2,638	2,640	2,775	2,220	1,757	1,389	1,371	1,352
65～69歳	4,172	3,325	2,695	2,546	2,556	2,689	2,152	1,703	1,346	1,329
70～74歳	3,021	3,930	3,148	2,562	2,427	2,443	2,574	2,060	1,630	1,288
75～79歳	2,521	2,742	3,595	2,888	2,363	2,246	2,273	2,392	1,914	1,516
80～84歳	2,418	2,136	2,354	3,122	2,512	2,075	1,986	2,012	2,116	1,692
85～89歳	1,706	1,739	1,570	1,759	2,378	1,915	1,606	1,534	1,557	1,635
90歳以上	941	1,180	1,330	1,333	1,451	1,867	1,788	1,607	1,486	1,440
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.5%	11.4%	12.5%	12.7%	12.2%	12.1%	12.6%	13.6%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.1%	49.0%	46.6%	44.1%	43.4%	43.4%	44.1%	44.4%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.3%	14.2%	14.9%	16.7%	16.9%	14.8%	12.8%	12.4%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.1%	25.4%	26.1%	26.4%	27.4%	29.7%	30.5%	29.7%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.4%	39.6%	41.0%	43.2%	44.4%	44.5%	43.3%	42.0%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

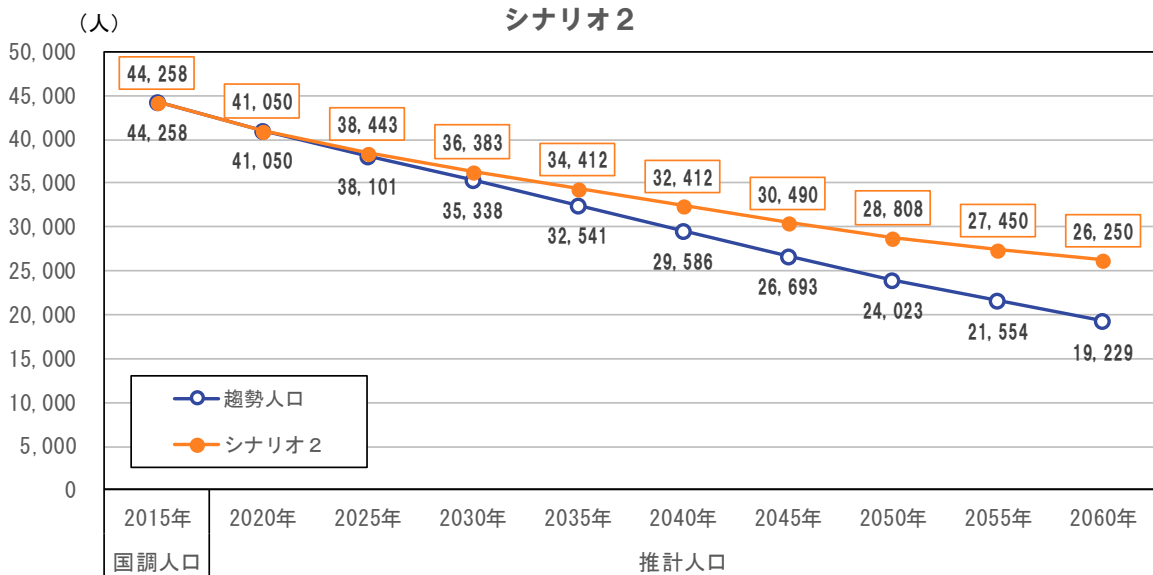
累積定住率（シナリオ1＝趨勢人口：2040年モデル）



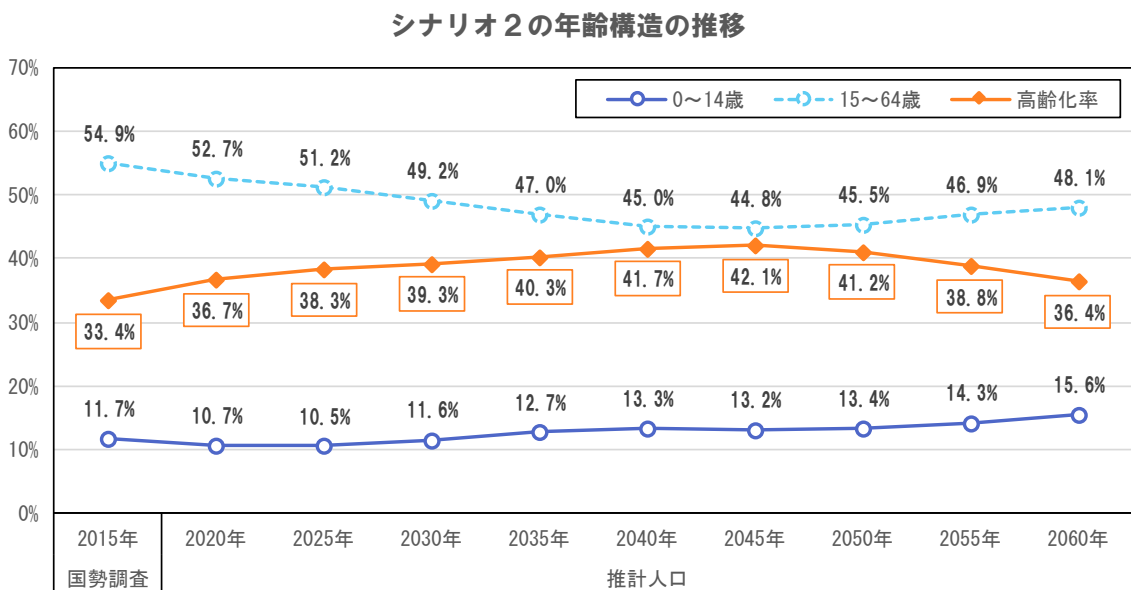
(2) シナリオ 2

シナリオ 2は、合計特殊出生率の上昇に加えて、生涯定住率が 2060 年までに 1.00 に上昇することを想定したシナリオです。

生涯定住率が上昇していくことで、シナリオ 1 に比べてさらに人口減少が緩やかになり、2060 年に想定される人口は 26,250 人と、趨勢人口に比べ 7,000 人程度の増加が想定されます。



年齢構造については、年少人口が 2060 年において 15.6%にまで上昇するとともに、高齢化率についても 2045 年の 42.1%をピークに 2060 年には 36.4%に減少することが想定されます。

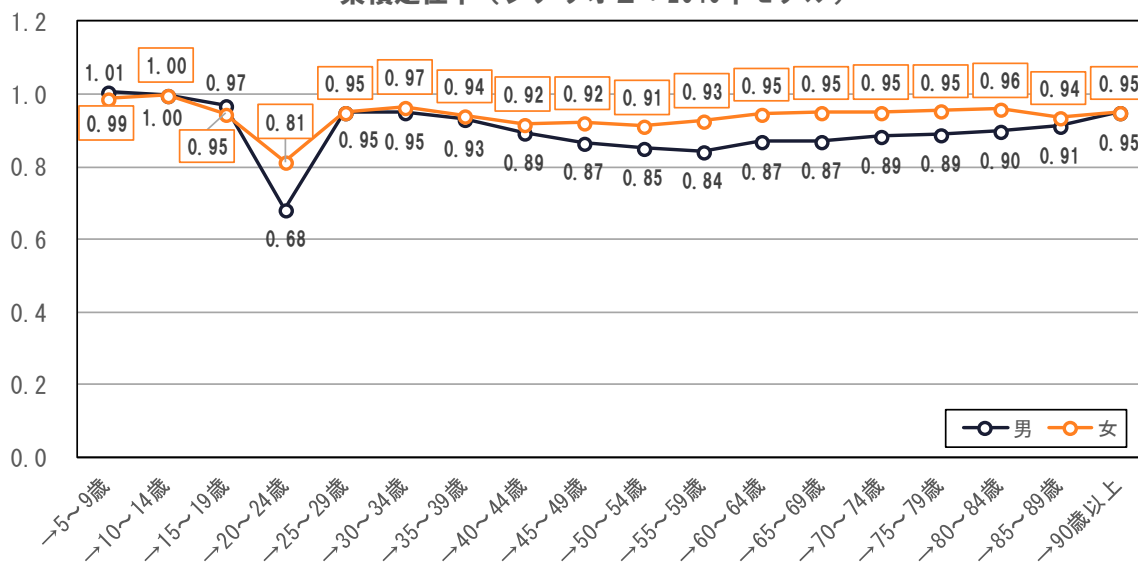


(単位：人)

シナリオ 2	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,443	36,383	34,412	32,412	30,490	28,808	27,450	26,250
0～4歳	1,469	1,297	1,426	1,576	1,447	1,319	1,248	1,288	1,383	1,418
5～9歳	1,740	1,407	1,255	1,394	1,556	1,444	1,315	1,245	1,284	1,379
10～14歳	1,959	1,674	1,367	1,233	1,384	1,559	1,447	1,317	1,247	1,286
15～19歳	1,947	1,667	1,474	1,241	1,152	1,326	1,500	1,399	1,278	1,215
20～24歳	1,408	1,354	1,194	1,090	940	897	1,036	1,177	1,102	1,011
25～29歳	1,617	1,585	1,573	1,434	1,345	1,194	1,144	1,327	1,515	1,425
30～34歳	2,051	1,610	1,584	1,576	1,440	1,355	1,203	1,152	1,337	1,526
35～39歳	2,515	1,977	1,556	1,536	1,532	1,404	1,321	1,173	1,123	1,303
40～44歳	2,993	2,395	1,889	1,491	1,477	1,478	1,353	1,273	1,131	1,082
45～49歳	2,780	2,906	2,332	1,846	1,461	1,453	1,455	1,331	1,252	1,112
50～54歳	2,702	2,681	2,812	2,264	1,799	1,427	1,420	1,423	1,301	1,224
55～59歳	2,827	2,646	2,636	2,775	2,241	1,787	1,418	1,412	1,416	1,293
60～64歳	3,471	2,799	2,631	2,631	2,781	2,253	1,798	1,427	1,421	1,425
65～69歳	4,172	3,325	2,696	2,545	2,556	2,712	2,199	1,756	1,394	1,389
70～74歳	3,021	3,930	3,152	2,571	2,439	2,462	2,616	2,121	1,695	1,345
75～79歳	2,521	2,742	3,595	2,906	2,389	2,280	2,310	2,454	1,989	1,590
80～84歳	2,418	2,136	2,355	3,123	2,555	2,125	2,038	2,068	2,195	1,779
85～89歳	1,706	1,739	1,570	1,766	2,382	1,983	1,671	1,601	1,627	1,726
90歳以上	941	1,180	1,346	1,385	1,536	1,954	1,998	1,864	1,760	1,722
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.5%	11.6%	12.7%	13.3%	13.2%	13.4%	14.3%	15.6%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.2%	49.2%	47.0%	45.0%	44.8%	45.5%	46.9%	48.1%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.2%	14.1%	14.5%	16.0%	15.8%	13.5%	11.3%	10.4%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.1%	25.2%	25.8%	25.7%	26.3%	27.7%	27.6%	26.0%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.3%	39.3%	40.3%	41.7%	42.1%	41.2%	38.8%	36.4%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。

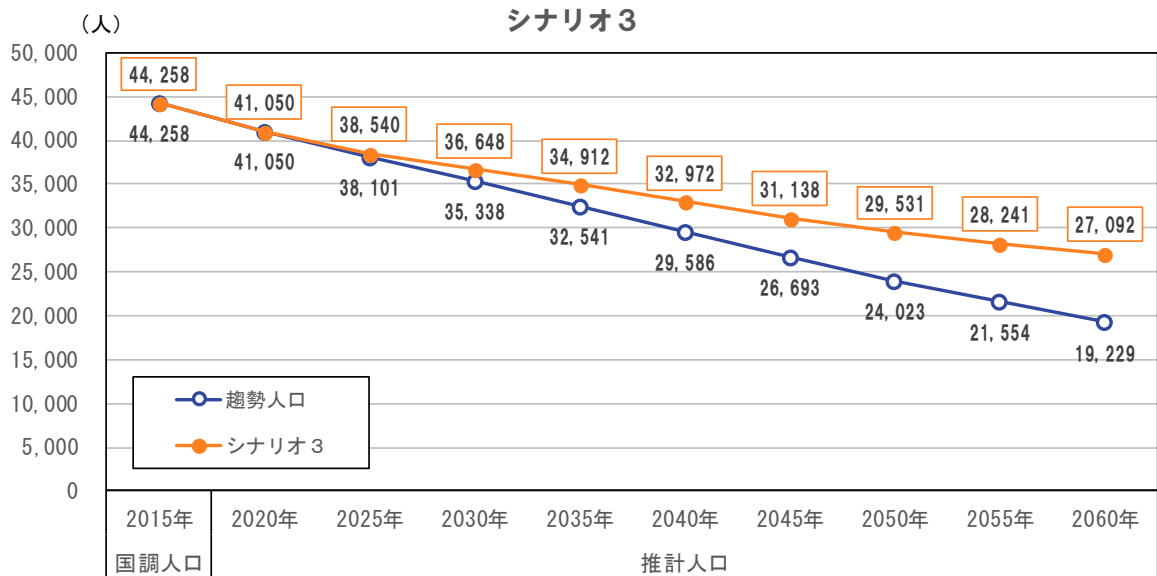
累積定住率（シナリオ 2：2040年モデル）



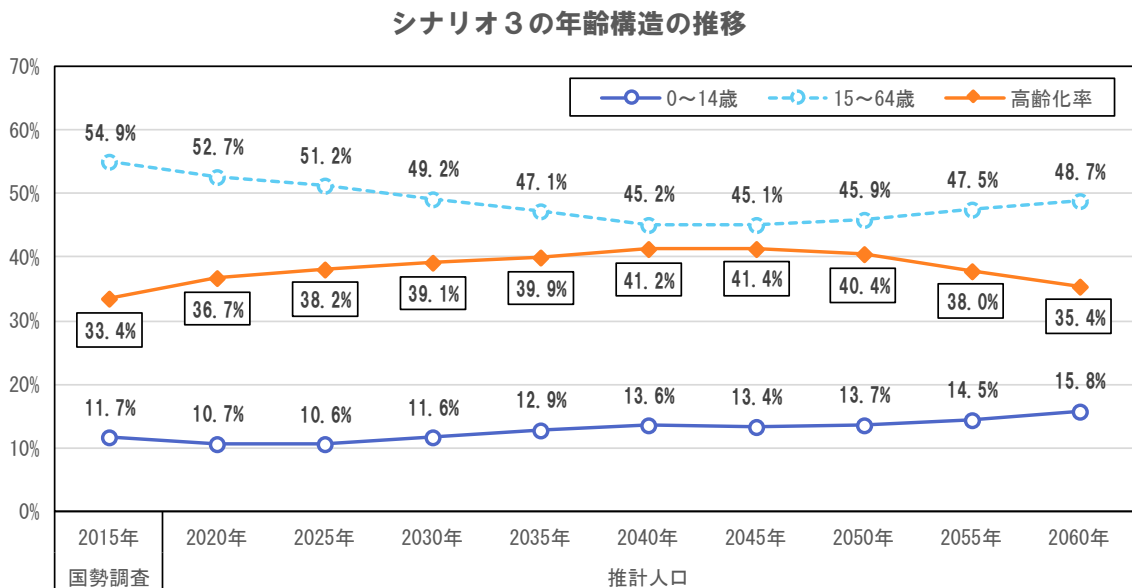
(3) シナリオ 3

シナリオ 3は、合計特殊出生率の上昇に加えて、生涯定住率が 2045 年までに 1.00 に上昇することを想定したシナリオです。

生涯定住率がシナリオ 2 よりも早い段階で 1.00 に上昇することで、シナリオ 2 よりも人口減少が緩やかになり、2060 年に想定される人口は 27,092 人と、趨勢人口に比べ 7,800 人程度の増加が想定されます。



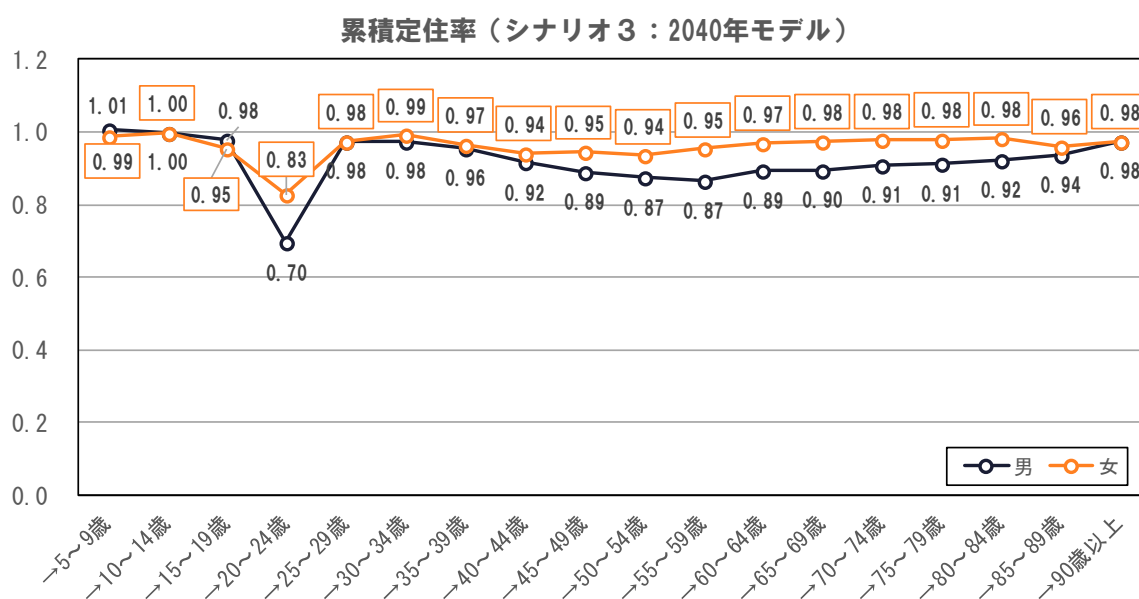
年齢構造については、年少人口が 2060 年において 15.8%にまで上昇するとともに、高齢化率についても 2045 年の 41.4%をピークに 2060 年には 35.4%に減少することが想定されます。



(単位：人)

シナリオ 3	国勢調査	推計人口								
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092
0～4歳	1,469	1,297	1,434	1,603	1,496	1,377	1,308	1,353	1,453	1,487
5～9歳	1,740	1,407	1,260	1,412	1,599	1,492	1,373	1,304	1,349	1,450
10～14歳	1,959	1,674	1,372	1,246	1,415	1,602	1,495	1,376	1,306	1,351
15～19歳	1,947	1,667	1,490	1,270	1,194	1,367	1,562	1,458	1,342	1,273
20～24歳	1,408	1,354	1,207	1,122	986	937	1,081	1,235	1,153	1,062
25～29歳	1,617	1,585	1,589	1,476	1,422	1,264	1,210	1,397	1,596	1,491
30～34歳	2,051	1,610	1,585	1,596	1,487	1,433	1,273	1,219	1,407	1,607
35～39歳	2,515	1,977	1,558	1,539	1,556	1,449	1,397	1,241	1,189	1,371
40～44歳	2,993	2,395	1,891	1,496	1,483	1,500	1,397	1,347	1,196	1,146
45～49歳	2,780	2,906	2,335	1,851	1,470	1,459	1,477	1,374	1,325	1,176
50～54歳	2,702	2,681	2,815	2,272	1,808	1,436	1,426	1,444	1,343	1,296
55～59歳	2,827	2,646	2,639	2,782	2,255	1,796	1,427	1,418	1,436	1,335
60～64歳	3,471	2,799	2,633	2,639	2,795	2,267	1,807	1,436	1,427	1,445
65～69歳	4,172	3,325	2,698	2,551	2,571	2,726	2,213	1,765	1,402	1,394
70～74歳	3,021	3,930	3,155	2,578	2,450	2,476	2,630	2,134	1,702	1,353
75～79歳	2,521	2,742	3,599	2,915	2,403	2,289	2,323	2,467	2,001	1,597
80～84歳	2,418	2,136	2,358	3,134	2,570	2,137	2,046	2,080	2,208	1,789
85～89歳	1,706	1,739	1,573	1,773	2,399	1,994	1,681	1,607	1,637	1,737
90歳以上	941	1,180	1,349	1,393	1,553	1,971	2,012	1,876	1,769	1,732
構成比										
0～14歳	11.7%	10.7%	10.6%	11.6%	12.9%	13.6%	13.4%	13.7%	14.5%	15.8%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.2%	49.2%	47.1%	45.2%	45.1%	45.9%	47.5%	48.7%
65～74歳	16.3%	17.7%	15.2%	14.0%	14.4%	15.8%	15.6%	13.2%	11.0%	10.1%
75歳以上	17.1%	19.0%	23.0%	25.1%	25.6%	25.4%	25.9%	27.2%	27.0%	25.3%
高齢化率	33.4%	36.7%	38.2%	39.1%	39.9%	41.2%	41.4%	40.4%	38.0%	35.4%

※国調人口について、年齢不詳人口がある場合はこれを社人研按分値を踏まえて按分している。



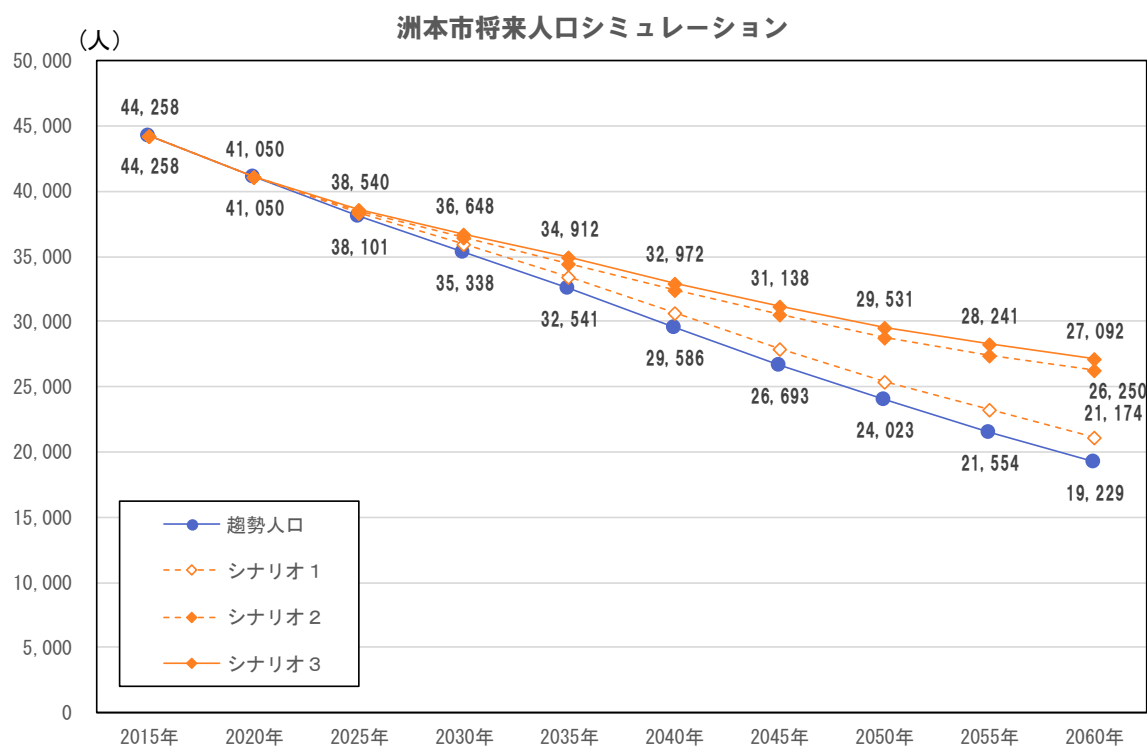
3. シミュレーションを踏まえた人口政策等の課題

[総人口の観点から]

いずれのシナリオにおいても、将来的に人口が減少していくことは避けられず、2060年の人口は、趨勢人口で19,000人規模、最も人口減少が緩和されるシナリオ3においても2,7000規模となります。

少しでも人口減少を緩和するための人口減少緩和策を講じていく必要があるのはもちろんのこと、2060年には少なくとも27,000人規模にまで減少することを見据えた人口減少適応策を考えていくことも併せて重要になってきます。

人口規模は現在よりも小さくとも、現在よりももっと暮らしやすい都市となれるような取り組みを検討・推進していく必要があります。



(単位: 人)

総人口	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	44,258	41,050	38,101	35,338	32,541	29,586	26,693	24,023	21,554	19,229
シナリオ1	44,258	41,050	38,301	35,905	33,398	30,657	27,905	25,401	23,206	21,174
シナリオ2	44,258	41,050	38,443	36,383	34,412	32,412	30,490	28,808	27,450	26,250
シナリオ3	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092

[自然動態の観点から]

出生数（5年間あたり）については、2060年において趨勢人口の600人程度からシナリオ3の1,500人程度までが想定されます。

人口規模が例え現在よりも小さくなくても、現在よりも暮らしやすい環境であるためには、人口構造において少子高齢化を抑制していくことが不可欠であり、そのためには、本市における出生数を維持・向上させていくことがとても重要です。

出生数を維持・向上させるためには、合計特殊出生率の改善と併せて、若い女性人口を増やしていく取り組みが重要になります。

また、将来の死亡数（5年間）については、趨勢人口からシナリオ3までのいずれの場合においても2060年で2,500～2,700人程度が想定されるとともに、いずれの場合においても自然減が今後も続くことは避けられない見通しです。

（単位：人）

出生数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	1,297	1,216	1,166	1,049	895	765	689	638	587
シナリオ1	1,297	1,416	1,541	1,359	1,161	1,024	991	1,007	979
シナリオ2	1,297	1,426	1,576	1,447	1,319	1,248	1,288	1,383	1,418
シナリオ3	1,297	1,434	1,603	1,496	1,377	1,308	1,353	1,453	1,487

（単位：人）

死亡数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	-3,290	-3,269	-3,212	-3,234	-3,298	-3,059	-2,809	-2,629	-2,496
シナリオ1	-3,290	-3,269	-3,212	-3,233	-3,301	-3,058	-2,810	-2,628	-2,502
シナリオ2	-3,290	-3,275	-3,215	-3,265	-3,357	-3,155	-2,962	-2,814	-2,705
シナリオ3	-3,290	-3,271	-3,221	-3,276	-3,386	-3,176	-2,984	-2,830	-2,717

[社会動態の観点から]

出生状況を改善させる（シナリオ1）だけでは、趨勢人口以上に社会減が大きくなるのが想定されるのに対し、生涯定住率1.00を目途とする移動状況の改善（シナリオ2、シナリオ3）を図ることで、将来的に現在の社会減を社会増の状態に転換させることができます。

こうした社会動態の減から増へのシフトは、単に人口減少を緩和させるだけではなく、都市の賑わい・活気を生み出す源ともなり得るものです。

また、現在の社会減の中心となっている若い年齢層の定住率の改善を通じて、出生数増加等の波及効果も期待されるなど、こうした人の流れを変える取り組みが極めて重要となってきます。

（単位：人）

社会動態（転入数－転出数）	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	-1,215	-896	-717	-612	-552	-599	-550	-478	-416
シナリオ1	-1,215	-896	-725	-633	-601	-718	-685	-574	-509
シナリオ2	-1,215	-758	-421	-153	38	-15	-8	73	87
シナリオ3	-1,215	-673	-274	44	69	34	24	87	81

[人口構造の観点から]

年少人口（0～14歳）比率については、合計特殊出生率の向上等を通じて、2060年において趨勢人口の9.6%よりも4～6ポイント高い水準を実現することができます。

子育て・教育関連の基盤施設整備については、長期的にはこうした人口政策とリンクした検討・計画が求められます。

(単位：人)

年少人口比率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	10.7%	10.0%	10.0%	10.2%	10.1%	9.8%	9.4%	9.4%	9.6%
シナリオ1	10.7%	10.5%	11.4%	12.5%	12.7%	12.2%	12.1%	12.6%	13.6%
シナリオ2	10.7%	10.5%	11.6%	12.7%	13.3%	13.2%	13.4%	14.3%	15.6%
シナリオ3	10.7%	10.6%	11.6%	12.9%	13.6%	13.4%	13.7%	14.5%	15.8%

都市の経済活動や消費活動に大きなウエイトを占める生産年齢人口（15～64歳）については、趨勢人口からシナリオ3までのいずれの場合においても、2060年における比率が現状を下回ることが想定されます。

地産地消の観点だけではなく、地産外消・地産外商の観点を含め、都市の生産活動・経済活動の維持・拡大に向け、検討していく必要があります。

また、本市の定住人口だけではなく、本市への通勤・通学者や観光客等を含めた交流人口・関係人口の拡大を図るための取り組みもこれまで以上に重要になってきます。

(単位：人)

生産年齢人口比率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	52.7%	51.4%	49.8%	47.8%	45.2%	43.9%	43.5%	44.0%	44.1%
シナリオ1	52.7%	51.1%	49.0%	46.6%	44.1%	43.4%	43.4%	44.1%	44.4%
シナリオ2	52.7%	51.2%	49.2%	47.0%	45.0%	44.8%	45.5%	46.9%	48.1%
シナリオ3	52.7%	51.2%	49.2%	47.1%	45.2%	45.1%	45.9%	47.5%	48.7%

出生状況・移動状況の改善（シナリオ2、シナリオ3）を通じて、2060年における高齢化率を30%台に抑制するとともに、介護需要を見極める上で重要な後期高齢者（75歳以上）比率についても、20%台に抑制することが可能です。

人口減少が避けられない中で、今後は将来の人口規模だけではなく、こうした人口構造にも着目した取り組みを進めることがとても重要です。

(単位：人)

高齢化率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	36.7%	38.6%	40.2%	42.1%	44.7%	46.4%	47.1%	46.6%	46.3%
シナリオ1	36.7%	38.4%	39.6%	41.0%	43.2%	44.4%	44.5%	43.3%	42.0%
シナリオ2	36.7%	38.3%	39.3%	40.3%	41.7%	42.1%	41.2%	38.8%	36.4%
シナリオ3	36.7%	38.2%	39.1%	39.9%	41.2%	41.4%	40.4%	38.0%	35.4%

(単位：人)

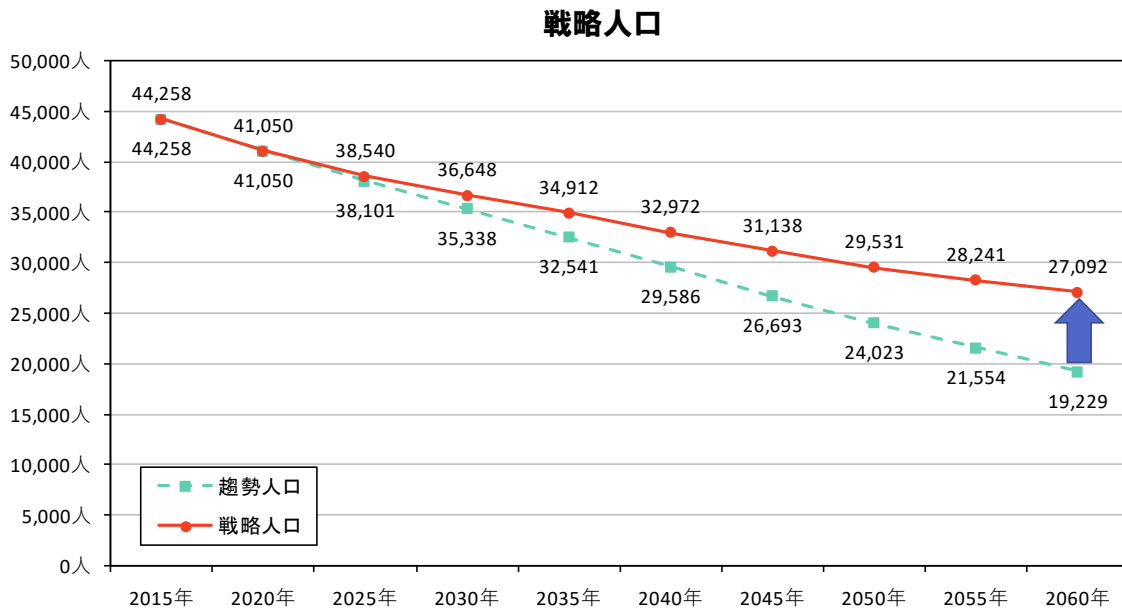
後期高齢者比率	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	19.0%	23.2%	25.8%	26.7%	27.4%	28.7%	31.4%	32.8%	32.7%
シナリオ1	19.0%	23.1%	25.4%	26.1%	26.4%	27.4%	29.7%	30.5%	29.7%
シナリオ2	19.0%	23.1%	25.2%	25.8%	25.7%	26.3%	27.7%	27.6%	26.0%
シナリオ3	19.0%	23.0%	25.1%	25.6%	25.4%	25.9%	27.2%	27.0%	25.3%

IV 洲本市の将来人口と将来展望

I. 洲本市の戦略人口

ここまでに示した趨勢人口の人口シミュレーションを踏まえ、洲本市では、2060年の戦略人口として27,000人規模の確保を目指すものとします。

戦略人口 2060年：27,000人規模の確保



(単位：人)

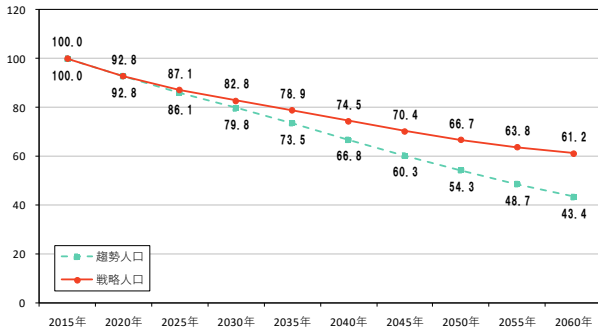
	国勢調査	推計人口									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	
趨勢人口	44,258	41,050	38,101	35,338	32,541	29,586	26,693	24,023	21,554	19,229	
戦略人口	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092	
戦略効果 (戦略人口-趨勢人口)		0	439	1,310	2,371	3,386	4,445	5,508	6,687	7,863	

(単位：人)

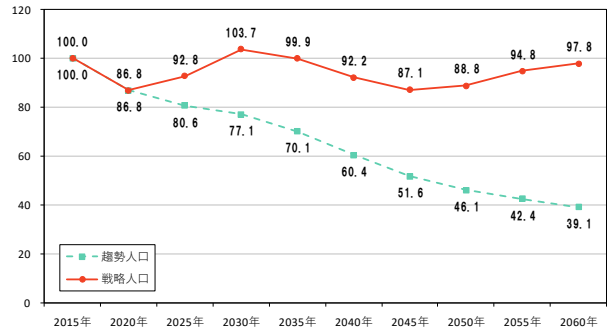
戦略人口	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	44,258	41,050	38,540	36,648	34,912	32,972	31,138	29,531	28,241	27,092
0～14歳	5,168	4,378	4,066	4,261	4,510	4,471	4,176	4,033	4,108	4,288
15～64歳	24,311	21,620	19,742	18,043	16,456	14,908	14,057	13,569	13,414	13,202
65歳以上	14,779	15,052	14,732	14,344	13,946	13,593	12,905	11,929	10,719	9,602
構成比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0～14歳	11.7%	10.7%	10.6%	11.6%	12.9%	13.6%	13.4%	13.7%	14.5%	15.8%
15～64歳	54.9%	52.7%	51.2%	49.2%	47.1%	45.2%	45.1%	45.9%	47.5%	48.7%
65歳以上	33.4%	36.7%	38.2%	39.1%	39.9%	41.2%	41.4%	40.4%	38.0%	35.4%

[参考1：人口変化指数でみる戦略人口]

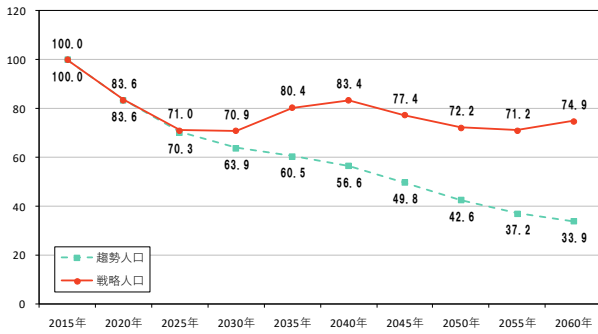
総人口 (2015年=100)



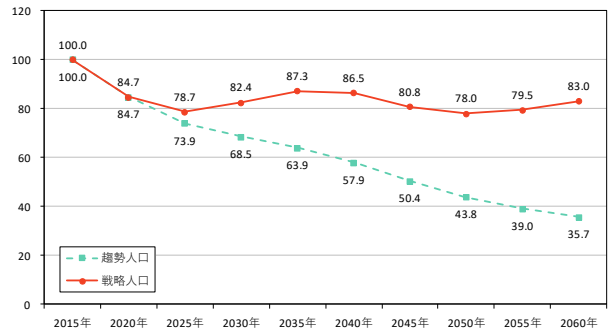
未就学の子ども数 (2015年=100)



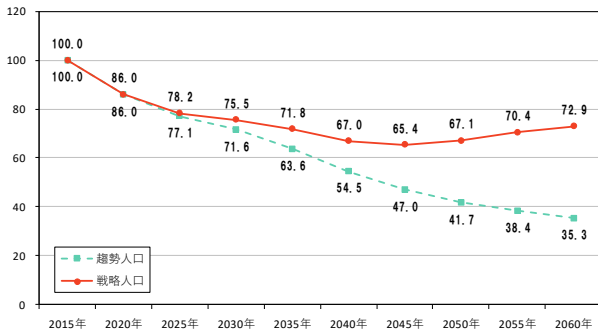
小・中学生数 (2015年=100)



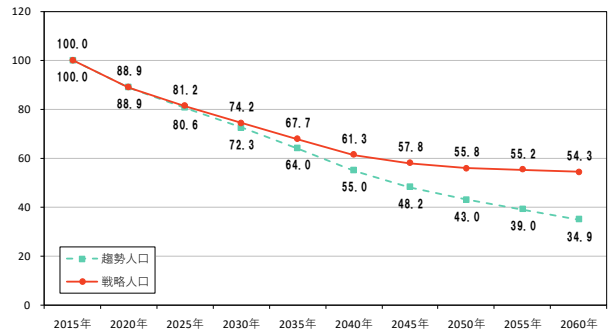
年少人口 (2015年=100)



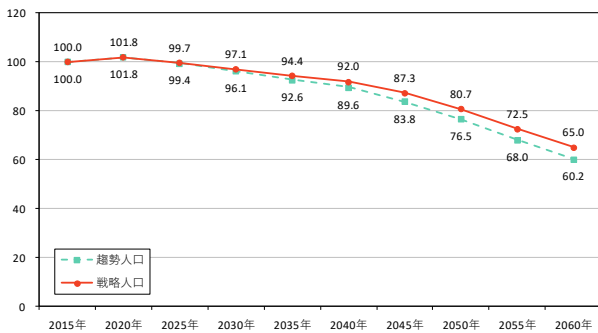
20~30代の人口 (2015年=100)



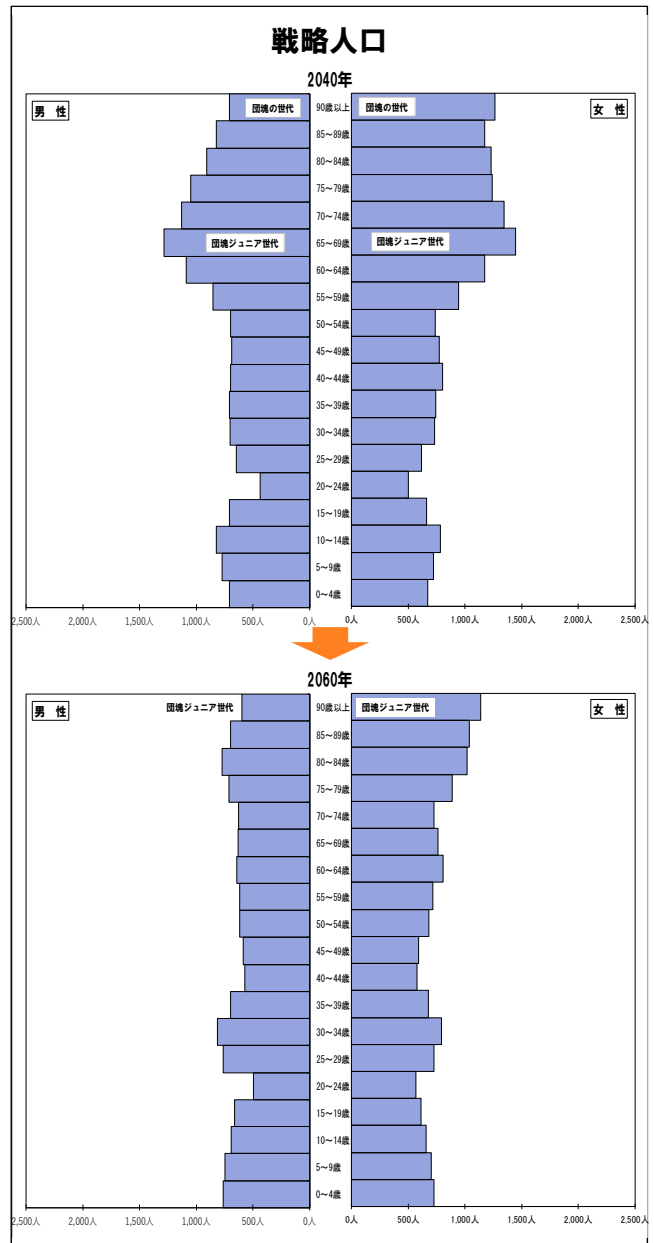
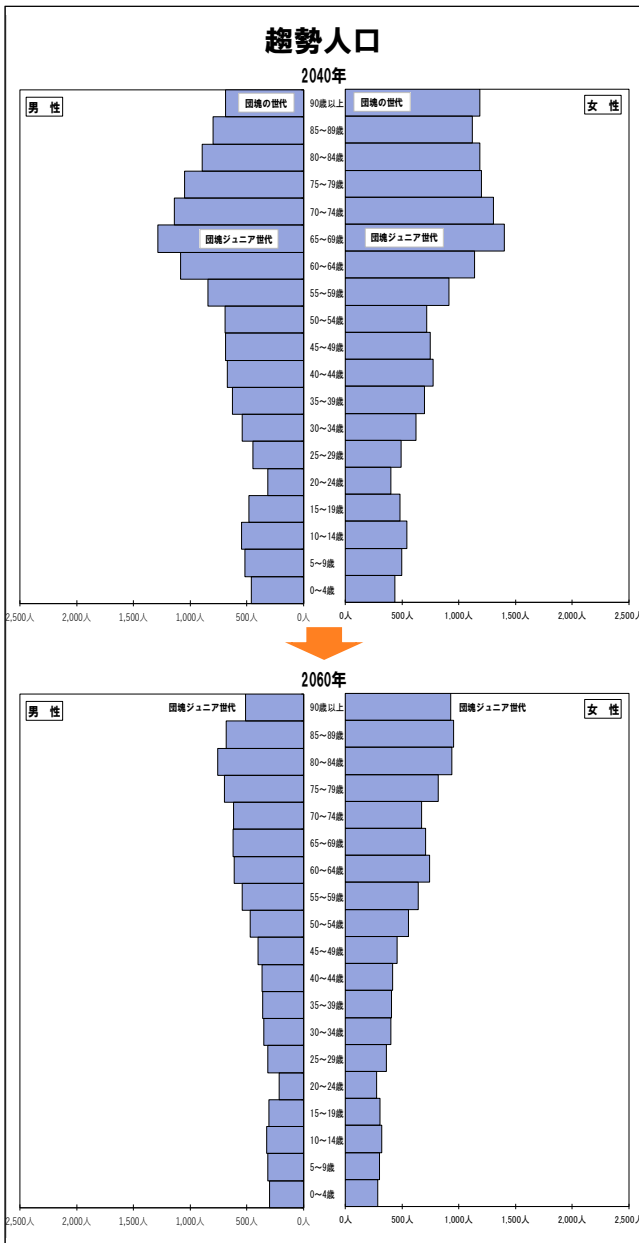
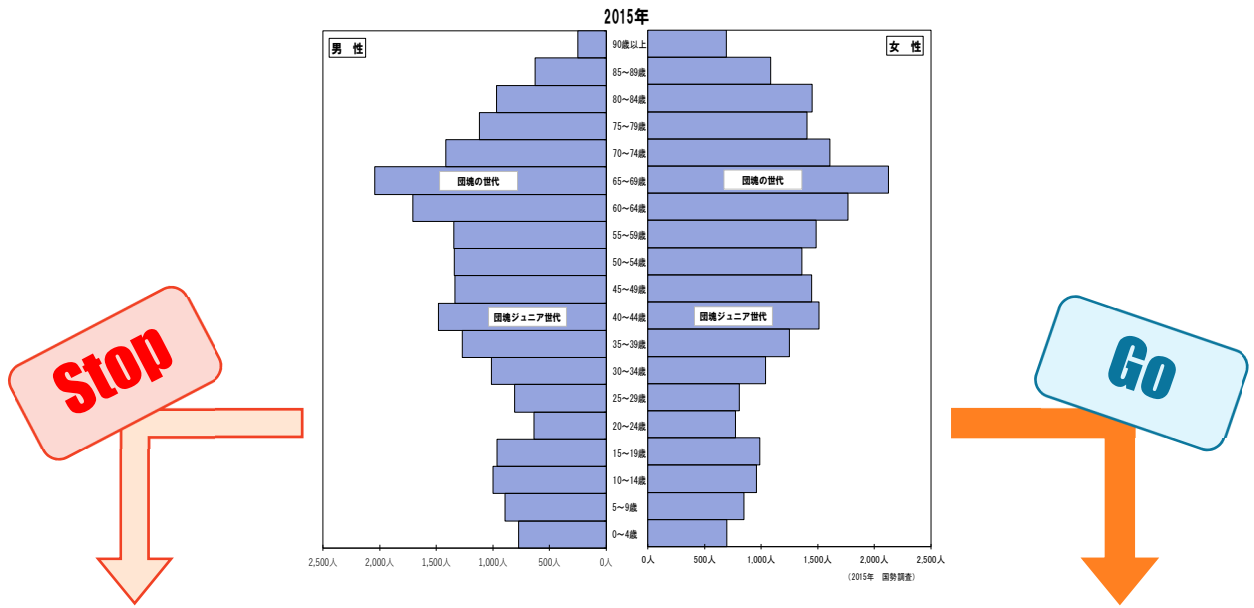
生産年齢人口 (2015年=100)



高齢者人口 (2015年=100)



[参考2：人口ピラミッドでみる人口構造の比較]



2. 洲本市の将来展望

- 戦略人口の達成に向けては、地域における雇用や本市への新しい“ひとの流れ”を創出するとともに、出産や子育てに関する現実と理想とのギャップを解消するための環境整備、人口減少時代に対応した地域社会を創り出すための取り組みを進める必要があります。
- こうした人口減少緩和策と人口減少適応策を両輪とする取り組みを通じて、地域における消費の落ち込みを抑制し、雇用や労働力人口を確保し、地域経済・地域社会に対する人口減少の影響を最小限に留めるとともに、今後想定される人口規模の縮小過程においても本市に暮らす誰もが不便を感じることなく、現在以上に快適な洲本暮らしを実現できる環境を創出していくことが重要です。
- そのためには、本市における地域資源の発見・発掘・ブラッシュアップや地域の活力を生み出すための取り組みを含めた地域創生の取り組みを進めるに際して、行政（市職員）だけではなく、市民・地域も一緒になって、アイデアを出し合い、ともに将来の洲本市について思いを馳せること、行政だけではなく、市民、地域団体、企業などが自らの暮らす地域社会の問題を自らのこととして考え、自ら主体的に行動することが不可欠です。
- “ひとの流れ”を変える取り組みについては、転出を抑制するとともに転入を促進する定住策だけではなく、洲本市を行き交う“ひとの流れ”を変える交流人口・関係人口の創出・拡大に向けた取り組みも重要であり、これらの“ひとの流れ”を変えるための様々な取り組みを総合的に推進していくことが重要になってきます。
- また、特に淡路島から島外へという“ひとの流れ”を考えると、本市だけの問題としてではなく、淡路島全体の問題としてこれを捉える視点や、島内3市の連携による取り組みも重要になってくるものと考えます。
- 洲本市に暮らす市民・仲間として（もちろん、淡路島に暮らす島の仲間として）、洲本市の将来の姿、淡路島の将来の姿をともに見据えつつ、地域の豊かな資源と安心・快適な暮らしを次の世代へと受け継いでいくために、「新洲本市総合戦略」では、戦略人口を達成するための地域創生の取り組みを明らかにし、その着実な遂行を図っていくこととします。

